

秋田県立博物館

年 報

令和5年度

秋田県立博物館





## はじめに

秋田県立博物館は昭和50年5月、人文・自然部門を統合した展示が特徴の本館と、分館「重要文化財・旧奈良家住宅」からなる総合博物館として、秋田市北郊の小泉瀧に囲まれた景勝地に誕生しました。以来、社会情勢の変化や県民の多様な要望に応える形で、施設及び機能の拡充を果たしてまいりました。平成8年には「秋田の先覚記念室」と「菅江真澄資料センター」の二つの展示室を新設、平成16年には参加体験型の展示室「わくわくたんけん室」を加えるなどしてリニューアルオープンし、現在は8部門を擁しています。広く県民に親しまれているほか、県外、国外からの来館者を迎える態勢を整え、開館以来の累計来館者数は400万人を超えています。

この数年、新型コロナウイルス感染症のパンデミックによって日常生活が大きく様変わりする中、当館の活動もさまざまな制約や変更を余儀なくされました。しかし一方、こうした状況下でもホームページの刷新や館内のデジタル化など、館機能の見直しや技術革新の動きが加速することになりました。またこの間、少子高齢化や過疎化、グローバル化等の社会変容の中で寄せられていた、博物館がもつ社会的経済的役割への期待が、さらに高まったと見受けられます。

今や県立博物館の役割は、資料の収集・保管、調査・研究及び展示等によって、県の文化や自然に関わる知を広め継承することにとどまるものではありません。これらの諸活動を基本としつつも、地域文化の発展や創造、あるいは地域社会の課題解決に積極的に寄与して、県民一人ひとりの多様で豊かな人生を支援することが求められていると考えます。地域と人と文化・自然遺産をつなぐ結節点として未来に向けて機能していくために、48年間にわたって蓄積された活動の成果、人的資源をもって臨んでまいります。皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

秋田県立博物館

館長 伊藤 真

## 目次

■ 施設の概要	
I 博物館のあゆみ .....	4
II 施設・設備 .....	5
III 展示室 .....	9
IV 組織 .....	13
V 職員 .....	14
■ 事業の概要	
I 令和5年度博物館運営方針 .....	16
II 令和5年度博物館事業計画 .....	16
1 重点目標 .....	16
2 活動計画 .....	17
III 令和4年度事業報告 .....	20
1 調査研究活動 .....	20
2 資料収集管理活動 .....	23
3 展示活動 .....	25
4 教育普及活動 .....	31
5 広報出版活動 .....	35
6 学習振興活動 .....	36
7 館外活動 .....	39
8 令和4年度のあゆみ .....	40
■ 資料	
I 収蔵資料の概要 .....	42
II 歴代館長、特別展等一覧 .....	43
III 秋田県立博物館条例 .....	44
IV 秋田県教育委員会行政組織規則（抜粋） .....	45
教育機関の管理及び運営に関する規則（抜粋） .....	45
V 入館者に関する資料 .....	46

## 施設の概要

---

## I 博物館のあゆみ

- 昭和42年 1月 第2次秋田県総合開発計画の中で、総合博物館の建設計画を立案  
12月 県立博物館の建設場所を秋田市金足に決定
- 47年 3月 県立博物館設立構想完成
- 49年 11月 定礎式
- 50年 3月 秋田県立博物館条例制定  
5月 開館式（5日）  
一般公開（10日）  
旧奈良家住宅（重要文化財）分館として博物館に移管される
- 7月 登録博物館となる（登録日50.7.1）
- 53年 10月 皇太子皇太子妃両殿下行啓
- 54年 1月 生物部門展示室「秋田の自然と生物」オープン
- 55年 5月 秋田県博物館等連絡協議会発足
- 59年 9月 開館10周年記念式典
- 63年 9月 本館屋根防水工事完了
- 平成3年 8月 秋田県立博物館再編構想案作成のため委員会を開催  
9月 分館旧奈良家住宅屋根修理着工
- 4年 11月 分館旧奈良家住宅屋根修理完成
- 5年 7月 増築工事着工
- 7年 8月 増築工事完成
- 8年 4月 「秋田の先覚記念室」「菅江真澄資料センター」オープン
- 9年 8月 ニューミュージアムプラン（NMP）21検討委員会設置
- 11年 4月 入館料が無料となる
- 14年 4月 ニューミュージアムプラン（NMP）21に伴う改修工事のため、「秋田の先覚記念室」・「菅江真澄資料センター」・分館旧奈良家住宅を除き閉館
- 15年 10月 改修建築・設備工事完成  
縄文時代の階段状石積み遺構を移設復元
- 16年 3月 展示工事完成  
4月 リニューアルオープン
- 17年 12月 開館30周年記念式典
- 18年 3月 旧奈良家住宅附属屋、登録有形文化財に登録
- 20年 7月 クニマスの液浸標本が、動物として初めて国の登録記念物に指定される
- 27年 9月 開館40周年記念式典
- 29年 7月 皇太子皇太子妃両殿下行啓
- 令和4年 3月 館内Wi-Fi化工事完了  
5年 2月 ウェブサイトリニューアル

## Ⅱ 施設・設備

<b>設置場所</b> 秋田市金足鳩崎字後山52 <b>敷地面積</b> 14,885.9m <sup>2</sup> <b>建築面積</b> 6,237.93m <sup>2</sup> <b>建築延面積</b> 11,946.2m <sup>2</sup> <b>建築構造</b> 鉄骨鉄筋コンクリート造り 地上3階、塔屋2階建	(株)中田建築設備 (株)ユアテック秋田支社 サン電気工業(株) 展示製作実施設計 (株)丹青社 展示製作委託施工 (株)乃村工藝社
---	--

### 【建築工事】

<b>建築費</b> 2,058,131千円 (含調査事務費・展示資料費) <b>着工</b> 昭和48年7月 <b>竣工</b> 昭和49年11月 <b>開館</b> 昭和50年5月 <b>工事業者</b> 建築設計 (株)安井建築設計事務所 建築施工 三井建設(株) 設備施工 (株)三晃空調 東北電気工事(株) 展示設計施工 (株)丹青社
---

### 設 備

〈電気設備〉	
(1) 受電電圧	3φ6,600V 50HZ
一般照明用	450KVA (150×3)
一般動力用	550KVA (300×1)
	(250×1)
非常照明用	50KVA
非常動力用	150KVA
(2) 発電機設備	発電電圧 3φ6,600V
	50HZ 200KVA
エンジン	ディーゼル 230KVA
(3) 蓄電池設備	108V 200AH 10HR
	54セル
(4) その他幹線・動力・電灯用設備一式	

### 【増築工事】

<b>建築費</b> 1,578,174千円 (含調査事務費・展示資料費) <b>着工</b> 平成6年7月 <b>完成</b> 平成8年2月 <b>増設開館</b> 平成8年4月 <b>工事業者</b> 建築設計 (株)安井建築設計事務所 建築施工 三井建設(株) 設備施工 (株)ユアテック 日の出施設工業(株) (株)三和施設 日本オーチスエレベータ(株) 展示設計施工 (株)アートシステム
--

### 〈警戒(報)設備〉

(1) レーダー警報設備 (展示室・収納庫)
方式、パッシブインフラレッド方式
レーダー検出 10ヶ所
ドアスイッチ 10ヶ所
(2) I・T・V監視設備
監視用カメラ 21台
(展示室14台 収蔵庫4台
1Fホール1台 外2台)
(3) 一般・非常放送設備
ロッカ型防災アンプ 容量 200W
非常時警報音 自動吹鳴式 (サイレン)

### 【NMP事業】

<b>事業費</b> 2,087,400千円 {総事業費 (含調査事務費、 展示製作委託費)} <b>着工</b> 平成14年3月 <b>完成</b> 平成16年3月 <b>リニューアル開館</b> 平成16年4月29日 <b>工事業者</b> 建築設計 (株)安井建築設計事務所 建築施工 (株)林工務店 (株)清水組JV 設備施工 大民施設工業(株) (株)あたごJV
---

### 〈空調換気設備〉

(1) 冷凍機設備 (備熱水槽方式 容量780m <sup>3</sup> )
直焚吸収式冷温水機 冷却能力
1,220KW 加熱能力 1,200KW 1基
ターボ冷凍機 (夜間蓄熱運転系統)
冷却能力 312KW 1基
空冷チリングユニット (夜間運転系統)
冷却能力 132KW 1基
(2) ボイラー設備
貫流ボイラー (暖房・加湿用) 熱出力 940KW
(換算蒸発量1,500kg/h)

伝熱面積 9.9m<sup>3</sup> 2基

(3) 空気調和設備 (10系統)

冷却能力合計 897.8KW

加熱能力合計 524.6KW

(4) 換気設備一式

給気量 (7系統) 合計 25,850m<sup>3</sup>/h

排気量 (9系統) 合計 28,360m<sup>3</sup>/h

(5) 空調自動制御設備一式

〈防火防災設備〉

(1) 防災設備 排煙口32ヶ所・垂れ壁6ヶ所

防火扉36ヶ所・防火シャッター6ヶ所

(2) 消火設備 屋内外消火栓設備一式

屋内消火栓17ヶ所 屋外消火栓14ヶ所

ハロン消火設備 (収蔵庫のみ 3区画)

二酸化炭素消火設備 (収蔵庫のみ 2区画)

〈その他の設備〉

(1) 荷物用エレベーター

容量2,500kg 45m/min 1基

(2) 乗用エレベーター

積載量750kg 11人乗45m/min 2基

(3) 電話設備 局線5回線 内線57回線

(4) 衛生設備 給排水設備一式

(5) ガス設備及び避雷針設備

(6) ガス燻蒸消毒設備

### 建築予算

単位：千円

区分	44~46年度	47年度	48年度	49年度	計	財源内訳
計画策定費	17,980	34,267	16,960	10,195	79,402	国庫
建物費	-	-	591,754	760,996	1,352,750	80,000
展示・資料費	41,880	20,000	183,907	318,758	564,545	県債
初度調弁・その他	-	-	3,240	35,400	38,640	1,241,000
調査事務費	7,246	5,835	5,828	3,885	22,794	一般
計	67,106	60,102	801,689	1,129,234	2,058,131	737,131

### 増築予算

単位：千円

区分	3~4年度	5年度	6年度	7年度	計	財源内訳
計画策定費	10,850	57,125	6,845	7,268	82,088	県債
建物費	-	-	354,805	613,438	968,243	1,117,000
展示・資料費	-	1,500	141,784	310,534	453,818	
初度調弁・その他	-	-	-	11,000	11,000	一般
調査事務費	2,200	9,770	22,257	28,798	63,025	461,174
計	13,050	68,395	525,691	971,038	1,578,174	

### NMP21事業予算

単位：千円

区分	11年度	13年度	継続費			小計	事業費合計	財源内訳
			13年度	14年度	15年度			
工事請負費	-	-	0	646,007	396,418	1,042,425	1,042,425	県債
委託費	9,870	39,995	0	60,676	919,184	979,860	1,029,725	1,516,000
調査事務費	5,250	-	1,296	4,522	4,182	10,000	15,250	一般
計	15,120	39,995	1,296	711,205	1,319,784	2,032,285	2,087,400	571,400

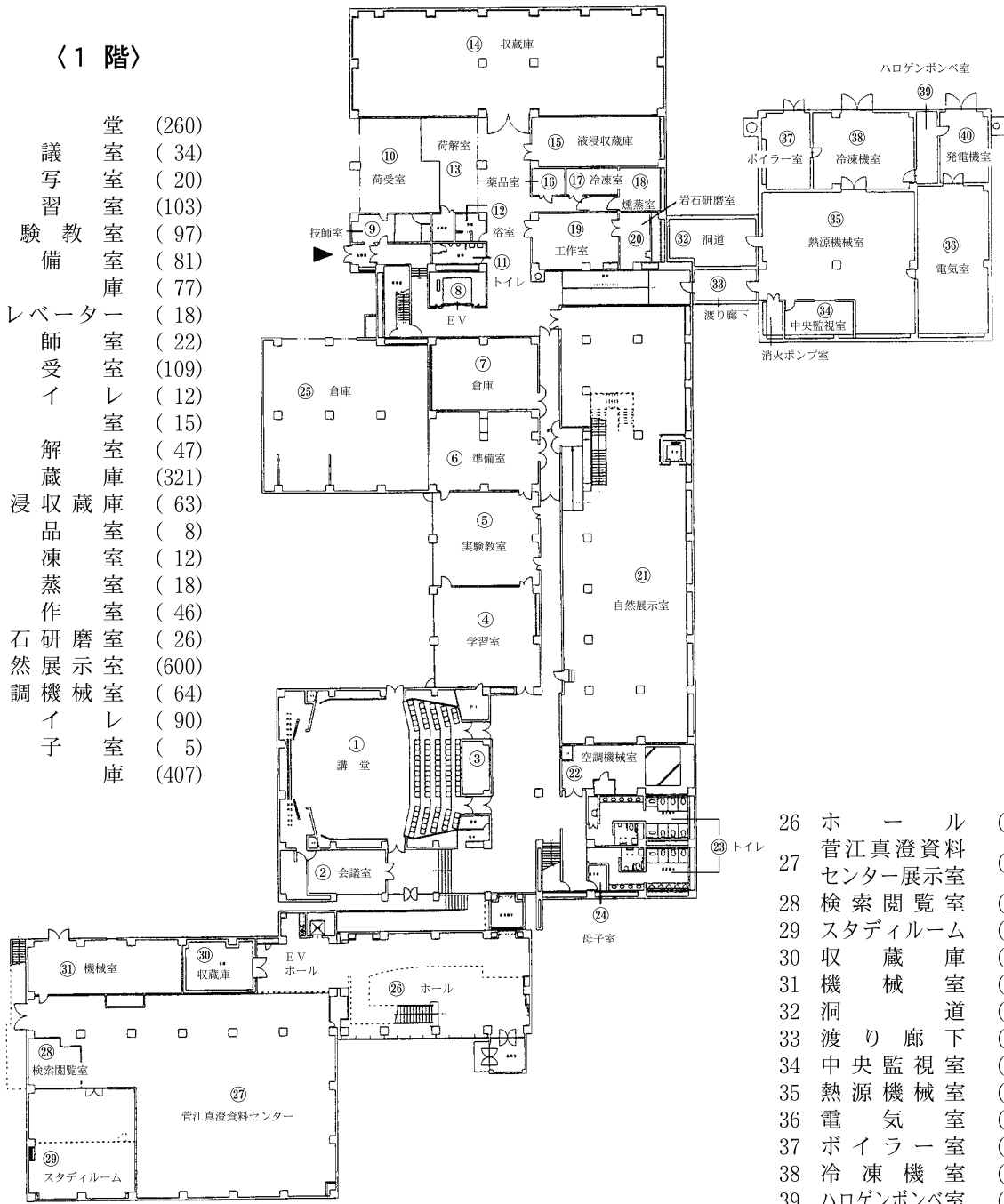


# 一各階平面図一

( ) 内の数字は面積 (単位㎡)

## <1階>

- 1 講 堂 (260)
- 2 会 議 室 (34)
- 3 映 写 室 (20)
- 4 学 習 室 (103)
- 5 実 験 教 室 (97)
- 6 準 備 室 (81)
- 7 倉 庫 (77)
- 8 エレベーター (18)
- 9 技 師 室 (22)
- 10 荷 受 室 (109)
- 11 ト イ レ (12)
- 12 浴 室 (15)
- 13 荷 解 室 (47)
- 14 収 蔵 庫 (321)
- 15 液 浸 収 蔵 庫 (63)
- 16 薬 品 室 (8)
- 17 冷 凍 室 (12)
- 18 燻 蒸 室 (18)
- 19 工 作 室 (46)
- 20 岩 石 研 磨 室 (26)
- 21 自 然 展 示 室 (600)
- 22 空 調 機 械 室 (64)
- 23 ト イ レ (90)
- 24 母 倉 (5)
- 25 倉 庫 (407)



- 26 ホール (242)
- 27 菅江真澄資料センター展示室 (464)
- 28 検索閲覧室 (23)
- 29 スタディールーム (113)
- 30 収蔵庫 (40)
- 31 機械室 (83)
- 32 洞道 (42)
- 33 渡り廊下 (25)
- 34 中央監視室 (23)
- 35 熱源機械室 (206)
- 36 電気室 (110)
- 37 ボイラー室 (41)
- 38 冷凍機室 (73)
- 39 ハロゲンボンベ室 (16)
- 40 発電機室 (36)

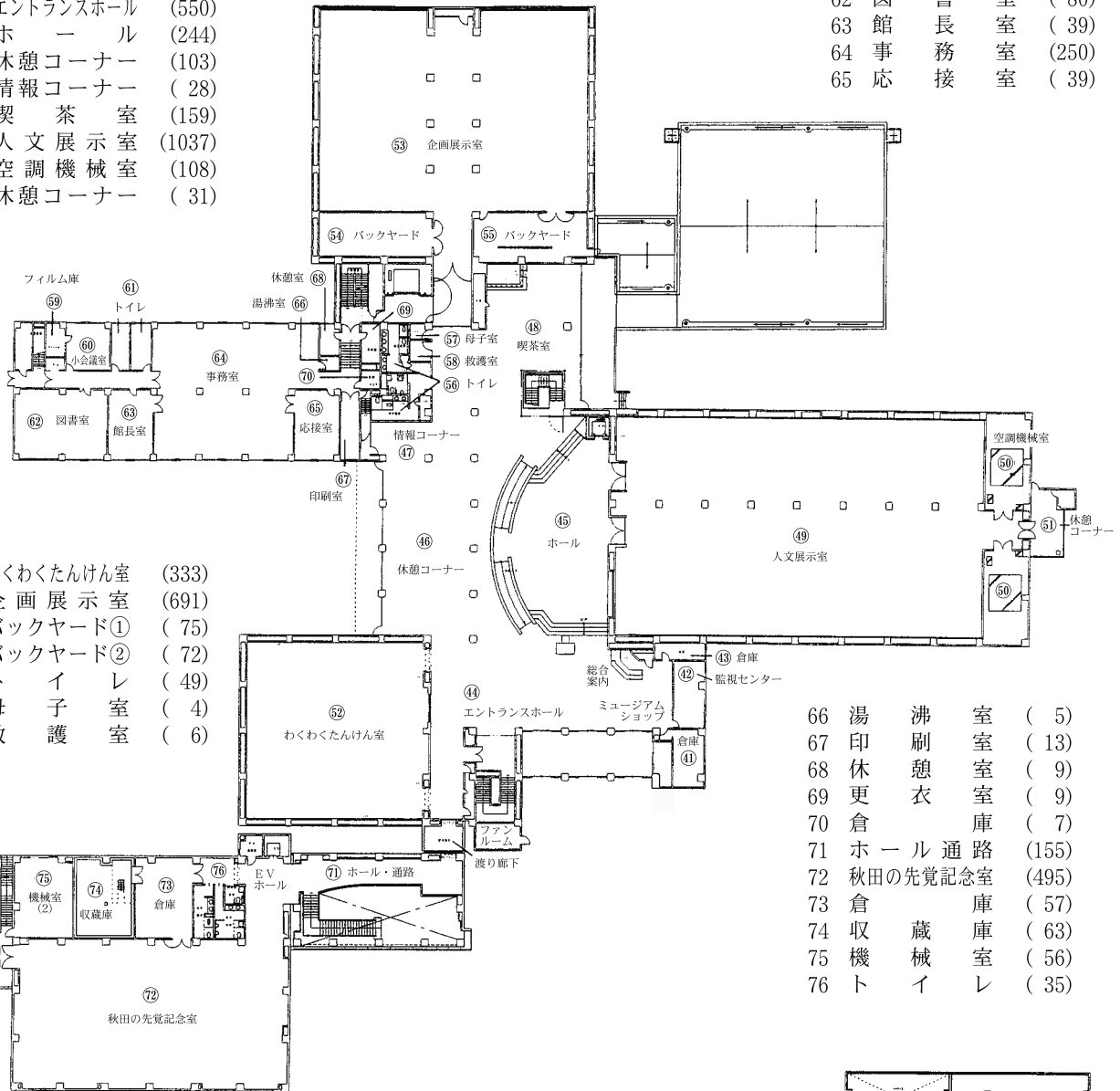
部門別床面積(㎡)	
展示部門	3,620
研究部門	388
収蔵部門	1,999
教育普及部門	595
計	6,602

階別面積(㎡)	
1階	4,546.578
2階	5,530.486
3階	1,706.694
屋階	162.44
計	11,946.198

〈2階〉

- 41 倉庫 (23)
- 42 監視センター (25)
- 43 倉庫 (14)
- 44 エントランスホール (550)
- 45 ホール (244)
- 46 休憩コーナー (103)
- 47 情報コーナー (28)
- 48 喫茶室 (159)
- 49 人文展示室 (1037)
- 50 空調機械室 (108)
- 51 休憩コーナー (31)

- 59 フィルム庫 (9)
- 60 小会議室 (26)
- 61 トイレ (29)
- 62 図書室 (80)
- 63 館長室 (39)
- 64 事務室 (250)
- 65 応接室 (39)



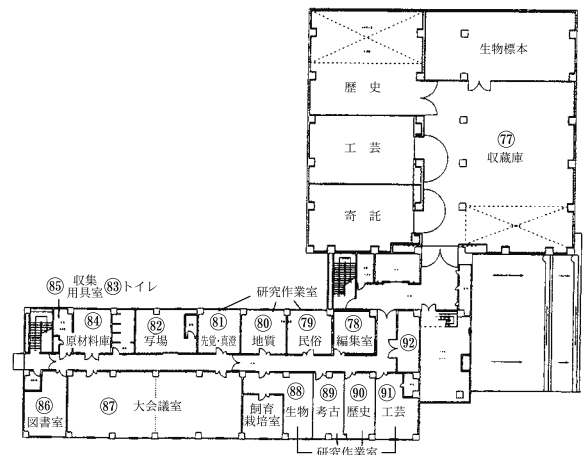
- 52 わくわくたんけん室 (333)
- 53 企画展示室 (691)
- 54 バックヤード① (75)
- 55 バックヤード② (72)
- 56 トイレ (49)
- 57 母子室 (4)
- 58 救護室 (6)

- 66 湯沸室 (5)
- 67 印刷室 (13)
- 68 休憩室 (9)
- 69 更衣室 (9)
- 70 倉庫 (7)
- 71 ホール通路 (155)
- 72 秋田の先覚記念室 (495)
- 73 倉庫 (57)
- 74 収蔵庫 (63)
- 75 機械室 (56)
- 76 トイレ (35)

〈3階〉

- 77 収蔵庫 (840)
- 78 編集室 (27)
- 79 研究作業室(民俗) (28)
- 80 " (地質) (28)
- 81 " (先覚・真澄) (27)
- 82 写場・暗室 (38)
- 83 トイレ (15)
- 84 原材料庫 (24)

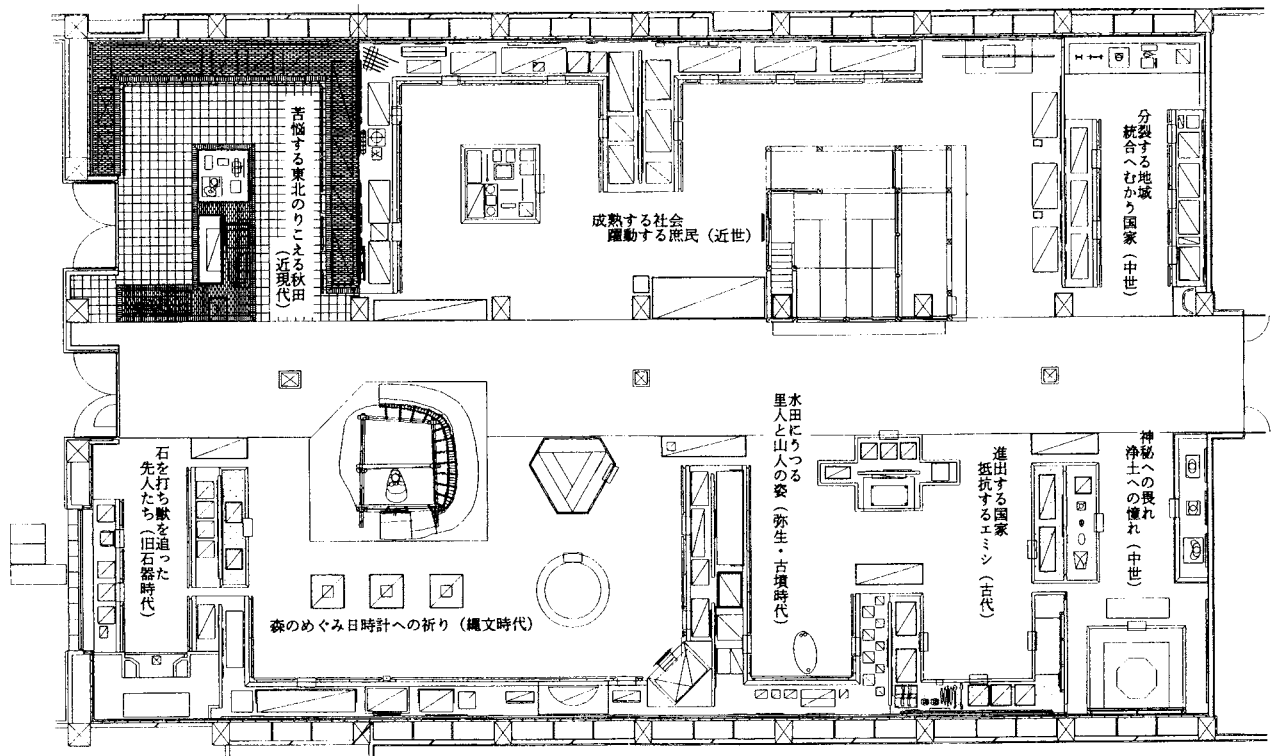
- 85 収集用具室 (10)
- 86 図書室 (34)
- 87 大会議室 (158)
- 88 飼育栽培室・研究作業室(生物) (62)
- 89 研究作業室(考古) (27)
- 90 " (歴史) (27)
- 91 " (工芸) (39)
- 92 倉庫 (19)



### Ⅲ 展 示 室

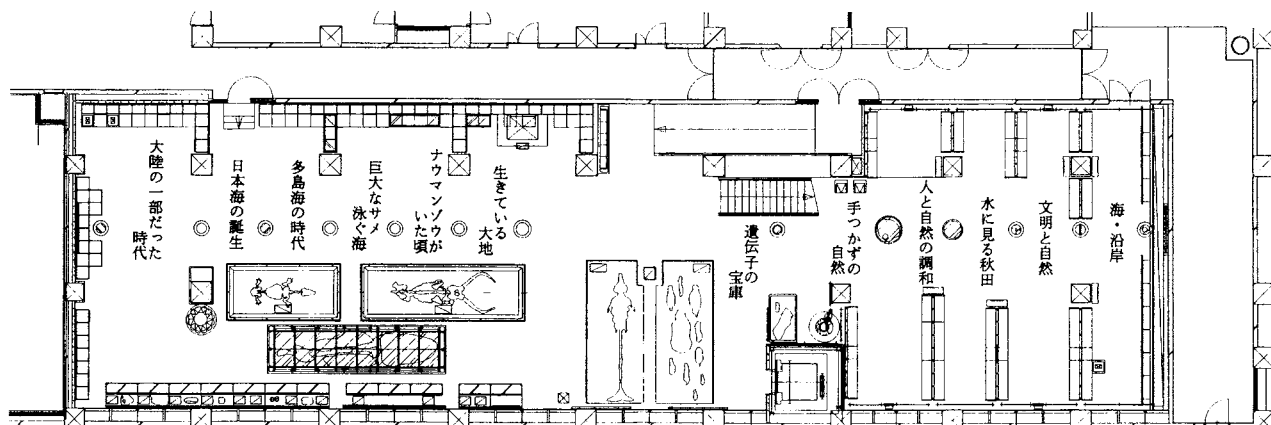
#### ◆人文展示室

旧石器時代から近現代までの、秋田の歴史と人々の生活史を紹介する。従来の強制的動線を排し、開放的な雰囲気の中で自由に好きなコーナーを見学できるように構成している。豊富な実資料のほか、縄文時代の竪穴住居や近世の商家が実物大で復元されており、実際に中に入って当時の雰囲気を体感することもできる。

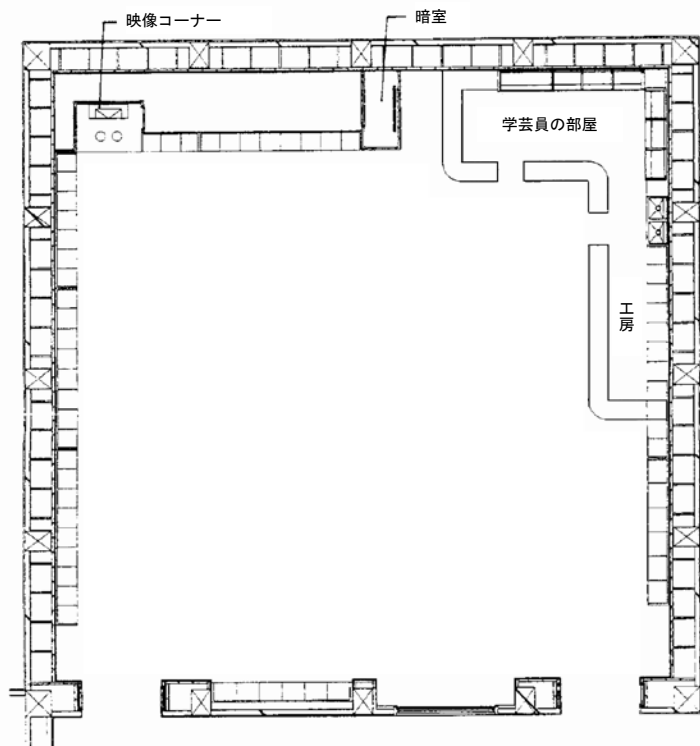


#### ◆自然展示室

「いのちの詩」(生物)・「大地の記憶」(地質)の二つの大テーマから、秋田の豊かな自然を豊富な実資料で紹介する。生きているそのままの姿の標本や、迫力ある大型骨格標本をはじめ、自然の魅力余すところなく映し出す映像資料も展示している。



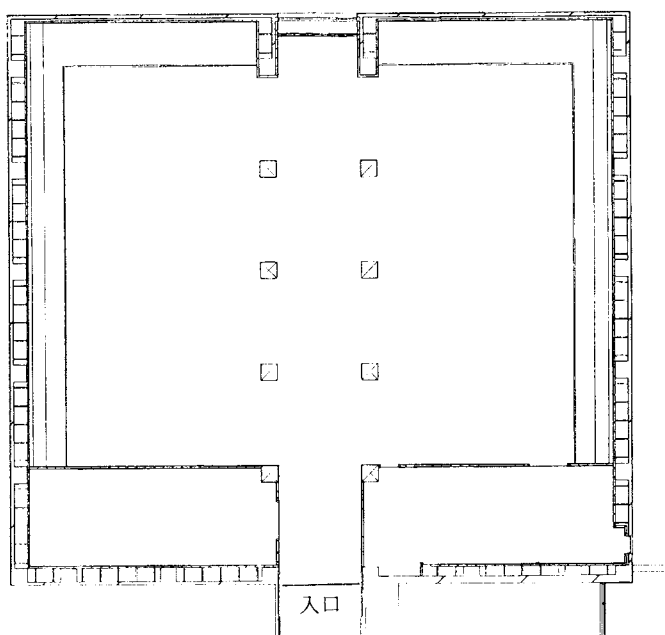
## ◆ わくわくたんけん室



「みて、ふれて、しらべて、やってみる」をキーワードに、様々なアイテムを利用できる展示室。工作や塗り絵などの体験活動を楽しみながら、秋田についていろいろな角度から学ぶことができる。工芸や自然などの資料を紹介するミニ展示コーナーもある。



## ◆ 企画展示室



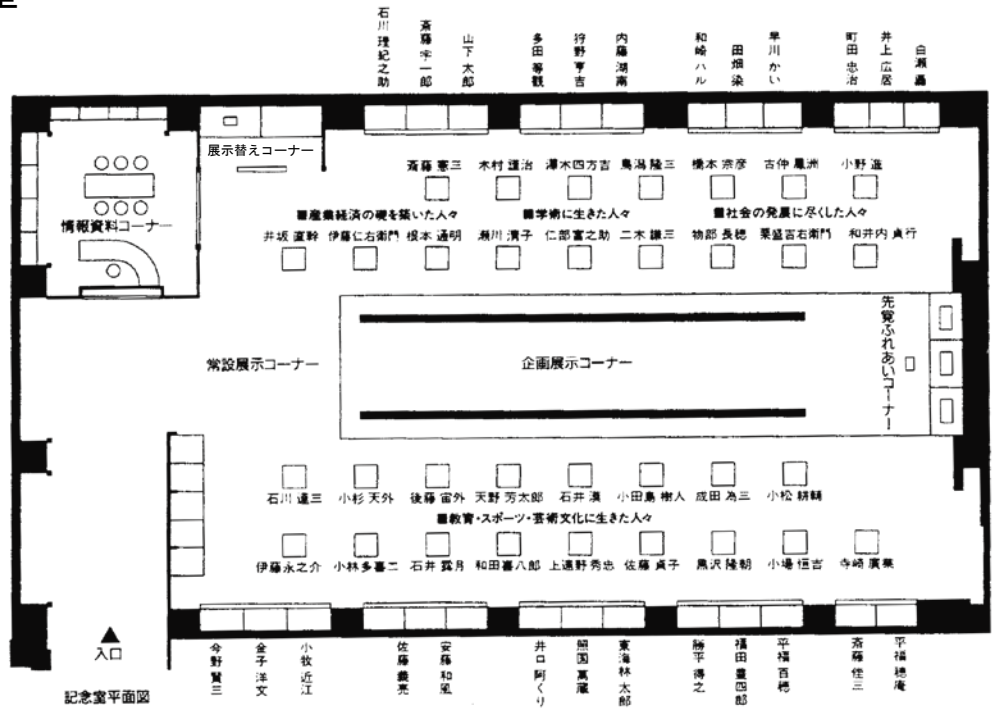
従来の展示室の約二倍の広さを確保。高透過ガラスを用いた壁面ケースは、すべてエア・タイトケースで、内部はつねに温湿度が一定に保たれている。これによって国宝・重要文化財クラスの資料を含む大規模な特別展も可能になった。



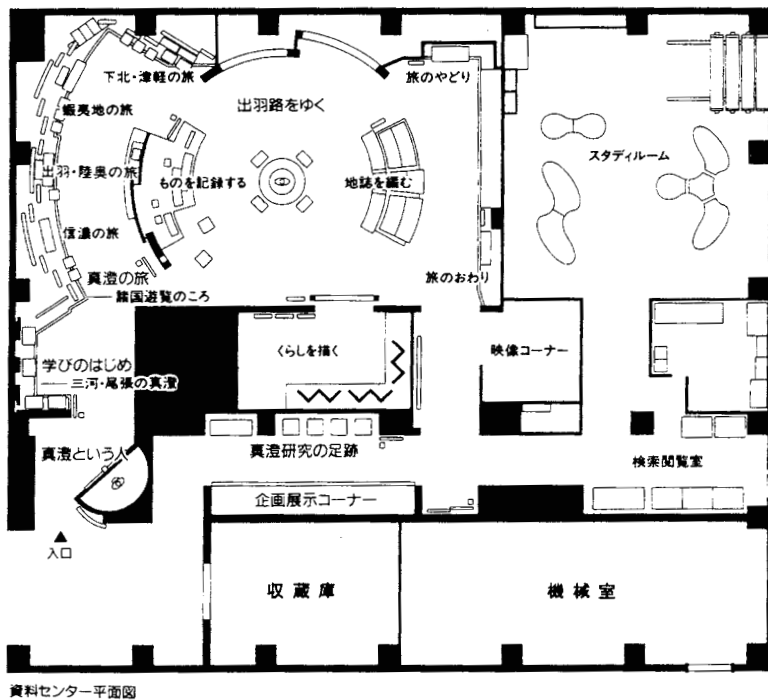
## ◆ 秋田の先覚記念室

近代秋田の豊かな産業や文化の礎を築いた多くの先覚の記録・資料を一堂に集めて展示している。情報資料コーナーでは先覚に関する著書や出版物の閲覧ができる。

パソコンなどの利用により、さまざまな情報を提供している。



## ◆ 菅江真澄資料センター



江戸時代の紀行家・文人菅江真澄の生涯と、彼が著した日記や図絵を展示するほか、多くの映像機器により、真澄の生きた時代などをわかりやすく展示している。

スタディールーム、検索閲覧室では、真澄をより深く学ぶことができる。

## ◆ 分館・旧奈良家住宅

所在地 秋田市金足小泉字上前8 電話 018 (873) 5009

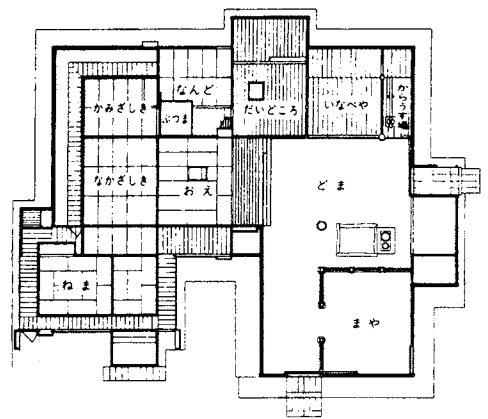
旧所有者 奈良恭三郎（昭和44年5月寄贈）

昭和40年5月29日 重要文化財（建築面積 459.08㎡）

旧奈良家住宅はJR東日本奥羽本線追分駅から2.5km、博物館から1kmの男潟北岸の小泉地区にある。

建築様式は秋田県中央部の海岸地帯の典型的な大型両中門の農家建築で、建築年代が明らかで、当初の姿をよく残している。

昭和40年に秋田県では最初の民家建造物としての国指定を受けたもので、県立小泉潟公園の博物館に隣接する文化財として広く公開するため分館とした。奈良家は江戸時代初期にこの地に土着して以来の豪農で、現存の住宅は宝暦年間（1751～1763年）9代喜兵衛が銀70貫と3年の歳月をかけて完成したもので、棟梁は土崎港の間杉五郎八と記録されている。



## ◆ 旧奈良家住宅附属屋

敷地内にある附属屋は平成18年3月に登録有形文化財に指定された

**味噌蔵**……明治7年に建造された、土蔵造の建物

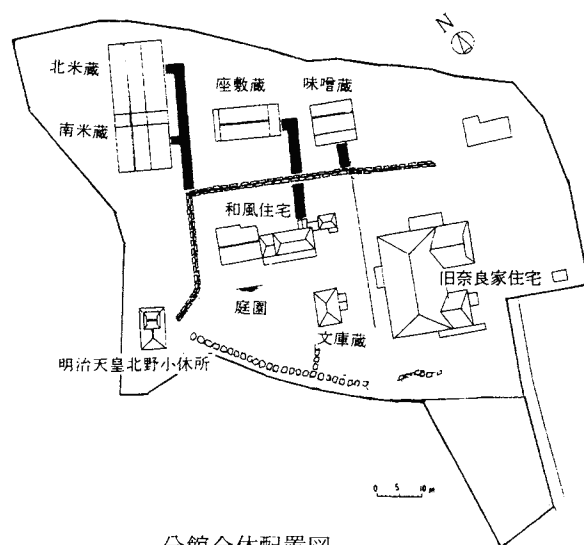
**座敷蔵**……明治23年に建造された、土蔵造の建物

**米蔵**……北米蔵は明治41年に、南米蔵は明治26年に建造

**明治天皇北野小休所（移築）**……明治14年に建造された、木造平屋建の建物

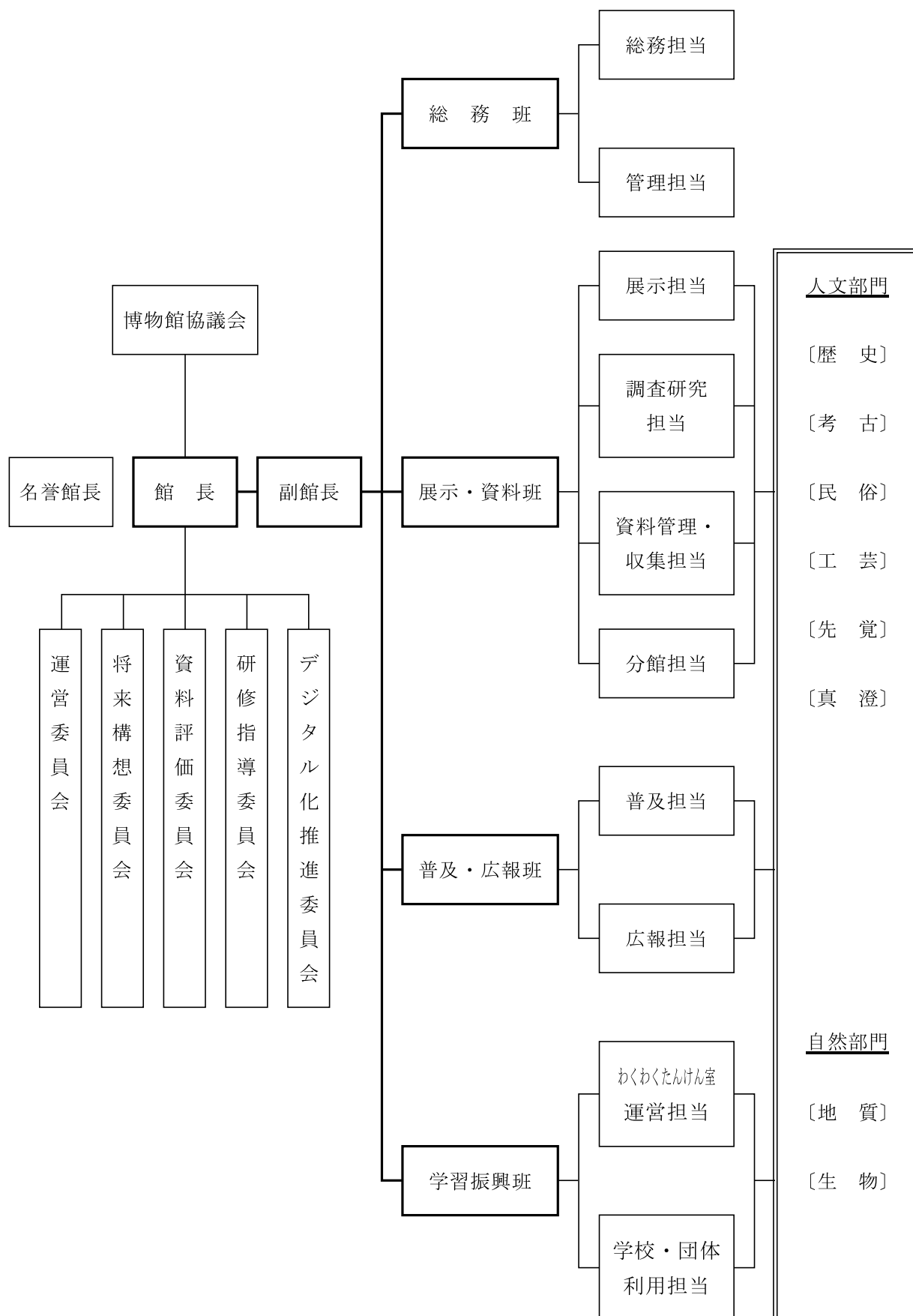
**和風住宅**……明治28年に建造された、木造二階建の建物

**文庫蔵**……大正13年に建造された、木造二階建の建物



分館全体配置図

# IV 組 織



# V 職 員

班名	職 名	氏 名	各班の分掌と部門担当
	館 長	伊 藤 真	総括
	副 館 長	高 橋 司	館長の補佐
総務班	副 主 幹 (兼) 班 長	内 田 隆 仁	班の総括 非常勤職員の任免に関する事、防災・衛生管理に関する事
	副 主 幹	佐 藤 貴 子	給与、福利厚生に関する事、歳入・歳出(事業) 予算に関する事
	主 事	菅 原 柊 太	管理、営繕に関する事、歳出(管理) 予算に関する事
	技 能 主 任	武 田 光 彦	空調設備運転に関する事、施設設備管理に関する事
	技 能 主 任	大 川 一 成	公用車運転に関する事、施設設備管理に関する事
展示・資料班	主任学芸専門員 (兼) 班 長	新 堀 道 生	班の総括 歴史部門に関する事
	主 査 (兼) 学芸主事	渡 部 均	地質部門に関する事、調査研究・資料管理に関する事
	学 芸 主 事	齋 藤 知 佳 子	先覚部門に関する事、調査研究・資料管理に関する事
	学 芸 主 事	深 浦 真 人	民俗部門に関する事、展示企画・資料管理に関する事
	学 芸 主 事	藤 中 由 美	生物部門に関する事、展示企画・資料管理に関する事
	学 芸 主 事	鈴 木 照 洋	地質部門に関する事、展示企画・資料管理に関する事
普及・広報班	副 主 幹 (兼) 班 長	加 藤 竜	班の総括 考古部門に関する事
	主 査 (兼) 学芸主事	藤 原 尚 彦	工芸部門に関する事、教育普及に関する事
	学 芸 主 事	黒 川 陽 介	歴史部門に関する事、広報に関する事
	学 芸 主 事	斉 藤 洋 子	工芸部門に関する事、教育普及に関する事
	学 芸 主 事	角 崎 大	真澄部門に関する事、広報に関する事
学習振興班	主任学芸専門員 (兼) 班 長	丸 谷 仁 美	班の総括 民俗部門に関する事
	主 査 (兼) 学芸主事	山 本 丈 志	工芸部門に関する事、わくわくたんけん室の運営に関する事
	学 芸 主 事	渡 部 猛	考古部門に関する事、わくわくたんけん室の運営に関する事
	学 芸 主 事	三 浦 益 子	生物部門に関する事、学校団体利用に関する事
	主 任 (兼) 学芸主事	千 田 育 栄	先覚部門に関する事、学校団体利用に関する事

## [ 会計年度任用職員 ]

畑 澤 俊 視 (ボイラー)  
三 浦 信 一 ( 同 )  
黒 沢 清 直 (守 衛)  
鈴 木 博 ( 同 )  
最 上 武 元 ( 同 )  
谷 口 重 光 ( 同 )  
虻 川 政 法 (工 作)

加賀谷 洋 子 (展示解説・案内)  
小 林 純 子 ( 同 )  
佐 藤 里 美 ( 同 )  
関 谷 百 世 ( 同 )  
廣 嶋 綾 子 ( 同 )  
三 浦 由 華 子 ( 同 )  
渡 會 知 子 ( 同 )  
佐 藤 未 央 ( 同 )  
小 林 清 佳 ( 同 )  
丸 山 和 ( 同 )

嵯 峨 彩 子 (学芸補助)  
佐々木 由 衣 ( 同 )  
藤 井 千 里 ( 同 )  
唐津谷 浩 生 ( 同 )  
佐 野 富 之 ( 同 )



## 事業の概要

---

## I 令和5年度博物館運営方針

改正博物館法の趣旨に則り、これからの博物館に求められる多様化・高度化した役割・機能を果たすべく、県民の生涯学習の拠点として、県民とともに培ってきた博物館活動の成果を継承し、さらに発展させることにより、県民文化の向上に寄与する。

- 1 秋田に関する調査研究をさらに進め、県民の知の拠点となる施設を目指す。
- 2 秋田を代表する文化や自然を次世代につなげるために、資料の収集・保存に努め、広く秋田の魅力を発信する。
- 3 県内唯一の県立の総合博物館として、魅力ある展示・公開を行う。
- 4 県民の生涯学習に資する社会教育施設を目指し、教育普及活動に取り組む。

## II 令和5年度博物館事業計画

### 1 重点目標

- (1) 博物館活動の核となる調査研究活動の一層の充実を図り、知的資産を創造し、地域に還元する。
  - ア 組織的、計画的な調査研究に取り組み、学芸職員の専門性の向上を図る。
  - イ 調査研究の成果を、広く県民に公開・発信する。
- (2) 県民の文化的向上に資するため、郷土資料を中心とした資料の収集・保存・活用の推進を図る。
  - ア 収蔵資料の増加に対応すべく、収蔵資料の整理及び収蔵環境の維持と改善に取り組む。
  - イ 収蔵及び展示資料のデジタル・アーカイブ化を推進し、効果的な活用を進める。
- (3) 驚きや感動があり、親しまれる展示活動を推進する。
  - ア 県民のニーズに合致した見応えのある特別展・企画展を実施する。
  - イ 来館者の声を活かし、県民目線に立ち、他の機関とも連携した展示活動を実施する。
- (4) 博物館活動の普及とサービスの一層の向上に努める。
  - ア 博物館教室、展示関連事業等により、普及活動の充実を図る。
  - イ 諸機関との連携事業や館外講座等を推進し、博物館活動の普及に努める。
- (5) 博物館活動の広報を通して、郷土への誇りや愛着の醸成に努める。
  - ア 印刷物やホームページ、SNS等、それぞれの媒体の特徴を活かしながら博物館活動の様子と郷土の魅力を発信する。
- (6) 県民の生涯学習に資する社会教育施設を目指し、教育普及活動に取り組む。
  - ア 感染症の予防に対応した新アイテムの精査やわくわくたんけん室の室内環境の改善に取り組む。
  - イ 学校団体によるセカンドスクールの利用の充実を図り、利用計画の提案や広報によって博物館利用の促進に努める。

## 2 活動計画

### 調査研究

- ◇展示会開催を目的とする調査研究
- ◇執筆・講演・講座等に伴う調査研究
- ◇特定の分野・フィールドに関する調査研究
- ◇他機関からの依頼・要請による調査研究、共同研究
- ◇教育普及・広報・学習振興・館運営に関する調査研究
- ◇レファレンス対応に伴う調査研究
- ◇専門分野に関する文献情報の収集
- ◇収蔵品の収集・整理と収蔵品に関するデータ・調書の作成
- ◇調査研究報告会、研修会の実施
- ◇成果の公表
  - ・『秋田県立博物館研究報告』の編集発行
  - ・『真澄研究』の編集発行

### 資料収集管理

- ◇資料収集・整理・保存・管理の徹底
- ◇資料データベース化の推進
- ◇収蔵庫管理の推進
- ◇燻蒸消毒作業
  - ・収蔵庫 ◎燻蒸期間 9月4日(月)～11日(月)

### 展示

- ◇展示活動
  - ・企画展示室における企画展・特別展
    - 企画展「秋田藩の絵図 - 描かれた城と城下町 -」  
4月29日(土・祝)～6月11日(日)
    - 特別展「人形博覧会 - 土偶からリカちゃんまで -」  
7月1日(土)～8月27日(日)
    - 企画展「HOTTA - 『払田柵跡』発掘半世紀 -」  
9月23日(土・祝)～11月5日(日)
    - 企画展「大こうぶつ展  
- 鉾物を楽しむ5つのメニュー -」  
11月23日(木・祝)～令和6年4月7日(日)
  - ・菅江真澄資料センター企画コーナー展
    - 「真澄採録怪異譚  
- ささきゑびす氏の絵画とともに -」  
7月15日(土)～9月18日(月・祝)
    - 「《雪の出羽路雄勝郡》と《勝地臨毫雄勝郡》」  
11月25日(土)～令和6年1月21日(日)
    - 「真澄が記録した鹿角・小坂」  
令和6年3月23日(土)～5月12日(日)
  - ・秋田の先覚記念室企画コーナー展
    - 「生誕120年記念 勝平得之 - 得之・秋田への想い -」  
9月24日(日)～11月26日(日)
  - ・ふるさとまつり広場
    - 子どもの成長を願う - 天神人形 -  
4月20日(木)～6月20日(火)
    - 夏のまつり - 七夕絵どうろう -  
7月6日(木)～8月29日(火)
    - 災いを防ぐ - ショウキサマー -  
9月28日(木)～11月14日(火)
    - 正月の来訪神 - ナマハゲ -  
12月7日(木)～令和6年2月6日(火)
    - 春の訪れ - ひな人形・押絵 -  
令和6年2月22日(木)～4月2日(火)
  - ・常設展示室における可変展示
  - ・他施設との連携展示
    - 県立図書館出張展示「美の國の名残・選+」  
4月1日(土)～5月28日(日)
    - 大館市立栗盛記念図書館出張展示(真澄部門)  
10月27日(金)～11月5日(日)
    - 県立農業科学館連携展  
令和6年3月8日(金)～5月6日(月)

教育普及

- ◇博物館教室・講演会
- (1) 化石と地層の観察会 5月21日(日)、5月28日(日)
- (2) 簡単!葉っぱの標本づくり 6月25日(日)
- (3) 昆虫教室-採集と標本づくり-
- (2回連続) 7月9日(日)、8月6日(日)
- (4) アリの観察会 9月17日(日)
- (5) 砂の中からさがしてみよう 10月1日(日)
- (6) 「真澄に学ぶ教室」講読会-県外の日記を読む-
- 土曜コース 5月27日、6月24日、7月22日、  
9月23日、10月28日、11月25日、  
12月23日、1月27日、2月24日、  
3月23日
- 日曜コース 5月28日、6月25日、7月23日、  
9月24日、10月29日、11月26日、  
12月24日、1月28日、2月25日、  
3月24日
- (7) 初心者向け 秋田の歴史教室(戦国~桃山編)
- (2回連続) 7月16日(日)、8月6日(日)
- (8) 初級編 秋田の縄文を学ぶ-レプリカ・レリーフ  
を作りながら- 7月30日(日)
- (9) 先覚入門 得之の蔵書票づくり 8月2日(水)
- (10) 初級編 縄文のくらし(衣食)-勾玉作り・弓矢  
と火起こし体験を通して-
- 8月5日(土)、8月19日(土)
- (11) 貝輪をつくる 8月20日(日)
- (12) 土器作り教室
- (2回連続) 9月24日(日)、10月22日(日)
- (13) 三浦館と旧奈良家住宅の見学会 9月28日(木)
- (14) 深澤多市と払田柵跡-深澤多市書簡からみる史跡  
指定の経緯と払田柵跡見学- 9月30日(土)
- (15) 初めての古文書解読
- (6回連続) 10月1日、10月8日、10月15日、  
10月22日、11月5日、11月12日  
(いずれも日曜日)
- (16) 地域回想法 10月7日(土)、11月18日(土)
- (17) 秋田の先覚を知る 10月21日(土)
- (18) 民俗学入門講座 3月9日(土)、3月16日(土)
- (19) 秋田の絞り染め(藍染め)
- (全4回) 5月20日(土)、6月27日(火)、  
6月28日(水)、6月29日(木)、  
7月8日(土)、8月8日(火)、  
8月9日(水)、8月10日(木)
- (20) 綿を紡ぐ 6月7日(水)、7月12日(水)、  
9月1日(金)、11月17日(金)、  
2月8日(木)、2月9日(金)
- (21) 木工芸 木のオブジェづくり ランドスケープカル  
プチャー 7月2日(日)
- (22) からむしを績む 7月6日(木)、7月7日(金)、  
10月4日(水)、11月7日(火)
- (23) ゼロからはじめるワラ仕事
- (全3回) 11月15日(水)、11月22日(水)、11月29日(水)
- (24) 木工芸 Christmas ornament 12月3日(日)
- (25) 「真澄に学ぶ教室」講演会 10月8日(日)
- (26) 秋田の先覚記念室講演会 10月29日(日)
- ◇イベント
- (1) 「軒の山吹」再現 4月末~5月初
- (2) ミュージアム・コンサート 令和6年3月
- ◇ミュージアム・トーク
- ◇展示付帯事業
- ◇館外講座
- (1) 出前講座(県庁出前講座)
- (2) 出張講座
- (3) 連携講座
- (4) その他
- ◇県内外の博物館等類似施設との連携
- (1) 日本博物館協会東北支部・東北地区博物館協会
- (2) 秋田県博物館等連絡協議会
- (3) 秋田市内文化施設連絡会議(みるかネット)
- ◇博物館友の会との連携
- ◇博物館ボランティア「アイリスの会」との連携
- ◇各種研修・実習等の受け入れ
- (1) 博物館実務実習(大学)
- (2) 中堅教諭等資質向上研修
- (3) 総合教育センターと連携した研修

## ▶ 広報・出版

### ◇広報活動

- ・事業に関する広報計画の策定と実施  
展示・イベント広報  
配布・発送計画
- ・その他の広報活動の実施と改善  
ホームページ、フェイスブックページの充実  
プレスリリースの充実  
広報資料、出版物等の管理  
館内掲示物の管理

### ◇出版物の刊行・配布

- ・年報 令和5年度 A4判 47頁 800部
- ・博物館ニュースNo.177・178  
A4判 8頁 各2,300部

- ・秋田県立博物館研究報告第49号  
A4判 81頁 500部
- ・広報紙「真澄」No.41 A4判 8頁 1,000部
- ・真澄研究第28号 A5判 100頁 400部
- ・秋田の先覚記念室企画コーナー展展示解説資料  
A4判 8頁 1,000部
- ・展示ポスター、広報チラシ  
企画展「秋田藩の絵図ー描かれた城と城下町ー」  
特別展「人形博覧会ー土偶からリカちゃんまでー」  
企画展「HOTTAー『払田柵跡』発掘半世紀ー」  
企画展「大こうぶつ展  
ー鉱物を楽しむ5つのメニューー」

## ▶ 学習振興

### ◇わくわくたんけん室の運営

- ・一般及び団体利用の促進
- ・室内・体験アイテムの保守管理
- ・休日イベントの計画立案
- ・体験アイテムの保守管理
- ・新アイテムの開発及び提供
- ・出張わくわくたんけん室の企画運営
- ・博物館ボランティアとの連携
- ・消耗品の補充管理
- ・感染予防対策、衛生管理
- ・わくわく展示の企画・実施

### ◇学校団体の利用促進

- ・学校団体のセカンドスクールの利用の促進
- ・出前授業の広報及び利用の促進
- ・学校利用の集計及び報告
- ・保育園、幼稚園、小中学校、高等学校の利用分析

### ◇その他、教育的支援

- ・中学校職場体験や高校生インターンシップ・ボランティア活動の受け入れ
- ・「教員のための博物館の日」の計画と実施
- ・大学との地域連携

## ▶ 分館・重要文化財旧奈良家住宅

主屋（重要文化財）を令和5年4月1日(土)から令和6年3月31日(日)まで公開。また附属屋（登録有形文化財）も外観のみ同期間に公開をする。附属屋については、

内部公開の希望に応えるために、令和5年9月28日(木)に公開し、学芸職員が解説を行うなど、適宜公開する機会を設ける予定である。

### Ⅲ 令和4年度事業報告

#### 1 調査研究活動

令和4年度は、各部門の専門分野に関する研究、資料保存や提供アイテムの検討などの博物館学的研究、館外機関との連携による研究等を実施した。「研究報告第48号」に8件、「真澄研究27号」に5件の原稿を収録した。また令和4年度から調査研究報告会の開催方式を改め

た。それとともなって年報における調査研究の報告様式も、従来は1人1テーマを掲げる形式だったが、資料整理から成果の公表までを含め、調査研究や知的生産のトータルな姿を反映できるよう、以下のように年間業務を総合的に記述する形式に改めた。

#### 部門研究

##### ◇加藤 竜（考古・館外連携）

- ・令和4年度企画展「秋田の縄文遺産」の開催に向けて資料調査を行った。実物展示の困難な魚形文刻石について、考古ボランティアの協力を得て拓本を製作し、借用分と合わせて県指定の魚形文刻石全ての拓本を展示することができた。
- ・人文展示室で展示中の人面付環状注口土器・鏡田遺跡出土土偶・寒川Ⅱ遺跡出土壺形土器について、秋田県産業技術センターの協力を得てX線CT解析を実施し、調査成果を研究報告第48号に掲載した。これらのうち人面付環状注口土器については断面画像および3D画像を編集して動画を作成し、企画展の冒頭で実物の近くにモニターで表示したほか、新聞記事の執筆を行った。
- ・企画展で展示した柏子所貝塚出土貝製品を参考に、海岸で採集したベンケイガイおよびサルボウ類の殻を使用して、考古ボランティアとともに貝輪の製作実験を行い、完成までのプロセスについて概ね見通しを得ることができた。
- ・委員委嘱されている大館市文化財保護審議会の会議に出席した。

##### ◇渡部 猛（考古・博物館学）

- ・平成28年に寄贈された収蔵品「山下孫継資料」の整理作業に取り組み、現在のところ405点の記録類とネガ・ポジフィルム497コマ、写真プリント1,456枚、アルバム38冊について内容の確認を行った。
- ・人文展示室の可変展示を担当し、収蔵庫に保管されている「鏝野目久米蔵コレクション」を調査し、その中から縄文晩期の土器と新屋浜貝塚出土資料について取り上げて展示した。
- ・その他、人文展示室の考古部門展示物対照資料の整備、視聴覚機材の整理やリスト化と簡単な取扱説明書の作成、博物館の研究報告の検索可能なデータベースの作成などを行った。

##### ◇新堀道生（歴史）

- ・企画展「新着・収蔵資料展」の開催にむけて、六郷熊野神社資料等について調査し、一部は文書の翻刻を作成した。
- ・古文書整理ボランティアの協力のもと整理している守屋家資料は整理件数が2,800件に達し、将来の目録編集を見すえて仮に分類を施し、暫定的な分類項目を作成した。
- ・県文化財保護室の依頼により男鹿・南秋地域の寺社で什物の調査を行い、その報告書に「男鹿凶屏風」について解説を執筆した。
- ・茂木家資料の明治元年の日記を翻刻し研究報告第48号に掲載した。
- ・その他、歴史関連の新聞記事の執筆等を行った。

##### ◇黒川陽介（歴史）

- ・昨年度寄贈を受けた「山田村中島家文書」の仮整理作業を継続し、書簡類の封筒詰めが終了した。
- ・博物館教室「初級者向け 秋田の歴史教室」の教材作成にあたり、豊臣政権の奥羽仕置に関する文献の収集と調査を行った。
- ・過年度から続けてきた城郭絵図に関する調査内容の一部を原稿にまとめ、博物館ニュースNo.175で発表した。また、令和5年度企画展「秋田藩の絵図―描かれた城と城下町―」の開催に向けて、県内の他機関が所蔵する城絵図や関連資料の調査を行った。

##### ◇丸谷仁美（民俗・館外連携・博物館学）

- ・令和3年度までは中山人形の人形型に関する調査を行ったが、令和4年度は高松家所蔵の八橋人形の人形型の整理および分類を行い、研究報告第48号に掲載した。
- ・県文化財保護室の依頼による秋田の郷土食に関する調査を5回行った。今後中間報告を作成する予定である。
- ・八戸市教育委員会の依頼により、八戸えんぶりの調査

を行った。

- ・横手市文化財保護審議会ならびに湯沢市文化財保護審議会の委員を委嘱されているため、それらの会議に出席した。
- ・その他、民俗関連の新聞記事の執筆等を行った。
- ・わくわくたんけん室のアイテムの見直しを行い、休日イベントなどで試行した。
- ・ホームページの刷新にともない、デジタルコンテンツの項目のとりまとめなどを行った。

#### ◇深浦真人（民俗・博物館学）

- ・令和4年度寄贈のこけしの調査と整理を行った。こけしの法量を計測し、正面、背面、上面、底面を撮影した。背面や底面に書かれてある文字（主に地名と作者）を解説した。今後は未整理のこけし資料と合わせて系統別に整理していきたい。
- ・わくわくたんけん室の害虫について調査した。わくわくたんけん室のどの場所に害虫が発生するかを細かく調べた。仮定では、出入り口付近と予想した。しかし、トラップを仕掛けて調査した結果、害虫が好む材料（宝箱の底部についているフェルト等）の周辺に発生していたことがわかった。

#### ◇山本文志（工芸・館外連携・博物館学）

- ・レファレンスで寄せられた洋風画と思われる「鳥羽図」等の調査を行った。現在も継続中である。
- ・木工芸の博物館教室において県産の雑木と蜜蝋を利用するため、制作方法、デザインプランを試行した。
- ・令和5年度開催の県立図書館での出張展示「美の國の名残・選+」にむけて、資料の再調査、展示の準備、解説資料の再制作を行った。
- ・県文化振興課からの依頼でアーツアーツサポートプログラムの展示事業2件について指導した。アーティストの表現について調査し、作品評を執筆した。
- ・館員のデザイン意識の向上を図るため、グラフィックデザインのワークショップを行った。
- ・館内のデジタル化に向けて、デジタルアーカイブと館内表示の制作を補助した。

#### ◇藤原尚彦（工芸）

- ・横手地域で行われていた藍の絞り染めについての調査の一環として、「小帽子絞り」と「鹿の子絞り」の製作技術について整理するとともに、横手木綿および横手木綿発展の礎を築いた最上忠右衛門に関する文献資料を収集した。

- ・近年寄贈となった高田箕水篆刻関係資料における制作用具等について概要をまとめるとともに、箕水の足跡に関する文献資料を収集した。

#### ◇齊藤洋子（工芸・館外連携）

- ・令和4年度から継続調査を行っていた能代春慶についての研究成果を研究報告第48号に執筆した。
- ・県文化財保護協会から依頼を受け、秋田県の伝統工芸について執筆した。出羽路163号に掲載予定である。
- ・亀田ぜんまい織、白鳥織について調査を行い、博物館ニュースNO.176に執筆した。

#### ◇藤中由美（生物・博物館学）

- ・館内に侵入する昆虫を調査し、侵入ルートや館内環境の実態把握に努めた。
- ・資料の虫害対策として、業務用冷凍庫による低温処理の運用方法について検討し、館内調査研究報告会で紹介した。
- ・令和4年10月より、自然展示室の展示替えコーナーにおいて、「これなに？葉っぱについた丸い“こぶ”」展を企画し、身近にみられる虫えいを紹介した。
- ・その他、生物関連の新聞記事の執筆、出前講座等を行った。

#### ◇三浦益子（生物・博物館学）

- ・植物ボランティアの協力のもと、植物標本の整理作業を行った。
- ・わくわくたんけん室と自然展示室との連携を目指し、アイテムの提示の仕方や説明内容について改善を試みた。「動物のあしあと」のレプリカ作成時に、動物の行動や形態について興味・関心を高めるよう工夫するとともに、自然展示室にも足を運び実物資料で理解を深められるようにした。
- ・デジタル化に伴うアキハクコレクションの資料解説のため、収蔵資料の貝標本について調べた。
- ・その他、生物関連の新聞記事を執筆した。

#### ◇渡部 均（地質・館外連携）

- ・秋田県内、特に大仙市の天徳寺層に含まれる球状炭酸塩コンクリーションの成因について、野外調査、炭素量測定を行い、研究報告執筆の一部を担当した。
- ・収蔵庫整理の一環として、男鹿市安田海岸産の化石標本の整理を行った。
- ・令和4年度特別展「大恐竜展秋田」の実行委員として展示作業を担当し、追加資料の調査、解説パネルの作

成等を行った。

- ・令和4年度企画展「新着・収蔵資料展」の展示の一部を担当し、ナウマンゾウ浜町追加標本について展示・紹介した。
- ・委員委嘱されている大館市文化財保護審議会の会議に出席した。

#### ◇大森 浩（地質）

- ・令和4年度開催の「大恐竜展秋田」に向けて、館蔵の恐竜化石と同時代の化石をリストアップするとともに、関連の資料や最新の研究成果について調査した。これにより、展示する恐竜（模型）同士の関わりや、恐竜の雄雌の区別、羽の色などが明らかになり、来館者への情報提供に生かすことができた。お隣の岩手県の化石について岩手県立博物館と久慈琥珀博物館の職員の方々からも情報提供をいただき、展示パネルを作成した。また、ケース2つ分のスペースに合わせて資料を借用し、展示した。

#### ◇齋藤知佳子（先覚）

- ・令和4年度秋田の先覚記念室コーナー展「武藤鉄城－秋田の考古と民俗－」の開催に向けて、鉄城の遺稿、アルバム、スクラップブック、書簡等の資料を調査した。資料数は967件に達した。また展示解説資料を執筆し、展示とともに、鉄城の功績について広く県民に紹介することができた。

#### ◇千田育栄（先覚）

- ・令和4年度秋田の先覚記念室コーナー展「武藤鉄城－秋田の考古と民俗－」の開催に向けて、借用した関連資料967件の状態の確認を行い、リストを作成した。また、本展示の解説書執筆の補助と展示業務を補助した。
- ・サキガケ・アド・ブレーンで毎週発行しているフリーペーパー『マリ・マリ』について、月1回掲載されている「秋田の先人名鑑」の原稿の執筆と、それに伴う資料調査を行った。
- ・その他、先覚部門のレファレンス対応をした。

#### ◇角崎 大（真澄・館外連携）

- ・令和3年度から準備を進めてきた企画展「深澤多市」を令和4年度の4月に開催。展示作業、展示解説等を行った。
- ・諸団体からの依頼のもと、秋田市や男鹿市周辺で真澄が記録した内容についての講話をのべ5回行った。
- ・真澄展示室企画コーナー展「雪の出羽路平鹿郡を読む」に係る諸業務を行った。
- ・真澄に学ぶ講演会の開催準備と実施に係る業務を行った。
- ・大館市立栗盛記念図書館からの依頼のもと、同館での出張展示に係る業務を行った。
- ・広報紙「真澄」40号及び真澄研究27号の編集・校正作業を行った。
- ・真澄展示室企画コーナー展「真澄、はじめての秋田」に係る諸業務を行った。

## 調査研究報告会

#### ◇館内調査研究報告会

令和3年度までは、1月の休館日を館内報告会に当て、1日で全部門の報告を行っていた。令和4年度からは、報告会の持ち方を見直し、情報や方法論の共有・継承、相互研鑽を目的として、通年適宜開催することとなった。報告者が日程等を決め、展示・資料班担当がとりまとめ参加者を募るという方法で、次のように開催した。

- ・秋田県大仙市の天徳寺層産の球状炭酸塩コンクリーションの炭素の起源と形成過程について

渡部 均

- ・低温処理法による資料の殺虫処理について

藤中由美

日時 令和5年3月2日 16:10～17:00

場所 大会議室



## 研究報告等の発行

### ◇研究報告第48号

- ・秋田県立博物館収蔵蛾類標本の過去の報告における誤同定の訂正と分類が見直された種の再同定  
梅津一史・藤中由美
- ・秋田県立博物館分館・旧奈良家住宅敷地内で得られた昆虫  
小林純子
- ・秋田県大仙市の天徳寺層（後期中新世後期－鮮新世）産球状炭酸塩コンクリーションの炭素の起源と形成過程  
渡部 晟・渡部 均・吉田英一
- ・人面付環状注口土器・鏡田遺跡出土土偶・寒川Ⅱ遺跡出土壺形土器のX線CT解析  
加藤 竜・小林 克・黒沢憲吾
- ・高松家所蔵の八橋人形型について  
丸谷仁美

- ・能代春慶－江戸時代から明治期にかけてのデザインの変遷－  
齊藤洋子
- ・名誉館長館話実施報告抄  
新野直吉
- ・〔翻刻〕茂木久栄家資料「日記帳」（明治元年）  
新堀道生・秋田古文書同好会

### ◇真澄研究第27号

- ・山口弥一郎と菅江真澄－「羽後仙北地方の地名考」から－  
石井正己
- ・深澤多市旧蔵資料中の真澄遺墨写真  
松山 修
- ・書写本《蘆儷曲記》、現代語訳の試み  
松山 修
- ・現代語訳《ふでのまにまに》第三巻  
嵯峨彩子
- ・随想「かなせのさと2022」  
松山 修

## 2 資料収集管理活動

令和4年度中に寄付等で新たに登録された資料は43件950点であった。

今年度は懸案であった三階収蔵庫の一斉燻蒸を実施できた。冬季には三階収蔵庫の一分の壁面で結露が見られ

たため、カビ発生の要因とならないよう監視を継続している。

また、植物標本等の殺虫のために冷凍庫を導入した。薬剤を用いない殺虫処理の足がかりとしたい。

## 資料収集・整理・保存・管理

### ◇令和4年度収集資料一覧

部門	資料名	数量	受入区分	
歴史	鉱山関係書類、写真	7	寄付	
	季吟・桂葉両吟百韻	1	寄付	
	幹部候補生集合教練日誌／学科手簿 他	2	寄付	
	伊勢家資料	1	寄付	
	戦中日記等	10	寄付	
	貨物鉄道関係資料 他	3	寄付	
	小柳家資料	1	寄付	
	佐竹義宣像	1	寄付	
	民俗	押し絵 他	47	寄付
		陶枕 他	16	寄付
スプーン、名札付携帯袋		2	寄付	
八橋人形		5	寄付	
八橋人形		4	寄付	
木彫り天神人形		7	寄付	
八橋人形		25	寄付	
押絵		63	寄付	
日立ドライヤーサロンタイプ		1	寄付	
ボタン式電話機		1	寄付	
仙台堤人形（谷風）		1	寄付	
木彫天神人形		1	寄付	
こけし 他		146	寄付	

部門	資料名	数量	受入区分
生物	アカボシゴマダラ	4	寄付
	コウロエンカワヒバリガイ・オオフサモ	3	寄付
	カナダコウガイゼキショウ	3	寄付
	帰化植物	124	寄付
	植物標本	219	寄付
	植物写真カラスライド	57	寄付
	モンキアゲハ	1	寄付
	シラカミツヤヒラタゴミムシ	2	寄付
	ヒラタブンブク	6	寄付
	ハヤブサ・チョウゲンボウ・コノハズク・モズ	4	委託制作
地質	化石資料	18	寄付
	ハイガイ化石	1	寄付
	県内産植物化石	27	採集
	女川層産植物化石	36	寄付
	昆虫化石	1	採集
	クジラ椎骨	1	寄付
	貝化石、漂着軽石	81	寄付
	デワクジラの化石、泥岩	2	寄付
	石灰質泥岩	2	寄付
	先覚	多田等観書、多田等観色紙	11
根元通明書		1	寄付
トルコ帽		1	寄付
合計（件数）		950	(43)

◇令和4年度資料収集状況

令和5年3月末日現在の資料総数 ( ) は令和4年度分

	購入	寄付	委託製作	所管換え	採集	その他	合計
総集	2,917	226	626	18	0	0	3,787 (0)
美術	415	25	2	8	0	0	450 (0)
工芸	7,371	6,411	1	13	0	0	13,796 (0)
歴史	5,125	3,707 (26)	113	184	0	73	9,202 (26)
考古	245	2,176	31	190	0	0	2,642 (0)
民俗	2,280	8,526 (319)	120	36	4	0	10,966 (319)
生物	17,345	99,454 (419)	7,743 (4)	36	1,658	0	126,236 (423)
地質	3,556	3,504 (141)	1,408	19	9,372 (28)	0	17,859 (169)
先覚	131	5,451 (13)	12	0	0	2	5,596 (13)
真澄	143	1,779	11	300	0	0	2,233 (0)
合計	39,528 (0)	131,259 (918)	10,067 (4)	804 (0)	11,034 (28)	75 (0)	192,767 (950)

◇令和4年度資料特別利用状況

目的別

利用者	県内外別			目的別							
	県内	県外	計	出版物	映像	広報・HP	市町村誌	展示資料	研究資料	その他	
博物館	都道府県立	0	2	2	0	0	0	0	2	0	0
	市町村立	4	1	5	1	0	0	0	5	0	0
	その他	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0
企業	出版	10	20	30	29	0	0	1	0	0	0
	映像	1	5	6	1	4	0	0	0	1	0
	T V	4	3	7	0	7	0	0	0	0	0
	その他	5	8	13	6	4	2	0	1	0	0
教育機関	大学	1	5	6	5	0	0	0	0	0	1
	その他	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0
都道府県	2	2	4	1	0	0	0	0	1	2	
市町村	10	3	13	5	0	5	0	1	0	2	
個人	10	9	19	12	0	2	0	0	2	3	
その他	13	2	15	9	2	2	0	0	0	3	
計	61	61	122	70	17	11	1	10	4	11	

◇令和4年度館蔵資料貸出状況

貸出先	県内外別			目的別				
	県内	県外	計	展示	研究	教材	資料	計
博物館等	4	1	5	3	1	1		5
教育機関	大学							0
	高等学校							0
	中学校							0
	小学校							0
	その他							0
研究所・文化団体		1	1	1				1
出版報道機関								0
都道府県								0
市町村	3		3	3				3
個人	2	1	3		3			3
その他								0
計	9	3	12	7	4	1	0	12

部門別

部門	利用数	利用内容							その他
		写真撮影	写真掲載	画像等貸与	映像録画	館内閲覧	デジタルデータ再利用		
工芸	2	1	2	1	0	0	0	0	
考古	10	0	7	4	0	1	1	1	
歴史	31	0	30	12	1	0	12	1	
民俗	16	0	11	9	0	0	3	1	
生物	7	5	5	1	0	0	0	1	
地質	3	3	3	0	0	0	0	0	
先覚	10	3	9	6	0	1	1	0	
真澄	74	0	33	30	2	0	14	2	
その他	3	2	3	0	1	0	1	0	
計	156	14	103	63	4	2	32	6	

※利用内容は重複があるので実際の利用数より多い。  
 ※一度の申請に複数の部門が関わっていることがあるため、利用数の合計と利用者数の合計とが異なっている。

データベース化の推進

令和3年度から館内デジタル環境の整備が始まり、令和4年度は新たにデジタルアーカイブがweb上に開設され、主立った資料のデータを掲載した。試行されていたデジタルアーカイブのデータも順次掲載する。

また館独自のデジタルアーカイブとは別に、秋田県立

図書館のアーカイブにも資料データが掲載されているが、内容は画像と基礎データだけであり、当館が目指す教育と直結連携を目指す解説コンテンツとは異なっている。今後も両者を並立してデジタルアーカイブの充実を図っていく。

燻蒸消毒および虫・害菌管理

燻蒸消毒は令和4年9月5日(月)～9月12日(月)、アルプ(酸化プロピレン)を使用し、1階真澄収蔵庫、2階先覚収蔵庫、3階収蔵庫(寄託、工芸、歴史、民俗、生

物)を燻蒸した。また秋博協加盟館から受け入れた資料も同時に燻蒸した。令和4年度の小型燻蒸機の稼働は無かった。

### 3 展示活動

企画展「深澤多市」は郷土史家・深澤多市の生涯と業績を紹介し、今日の郷土史、菅江真澄研究における功績を明らかにした。郷土史団体、文化財保護団体の来場が多く、郷土史研究への関心を高める展覧会となった。

特別展「大恐竜展」は化石標本、恐竜模型、クラフト恐竜などによるエンターテインメント性の高い展覧会で、若年層や家族連れに好評だったため、当館の最多入場者数を記録した。秋田テレビと実行委員会をつくり、博物館、マスコミ、関連会社との連携により行った経験は今後の特別展運営に活かされるだろう。

企画展「秋田の縄文遺産」は北海道・北東北の縄文遺跡が世界遺産に登録されたこともあって、県内の縄文遺跡、出土品への関心も高まりつつあり、タイムリーな開催となった。秋田の縄文文化を網羅する展示に多くのファンが詰めかけた。

企画展「新着・収蔵資料展」は近年当館に収蔵された秋田臨海鉄道関連資料と戦時資料を中心に、新たな調査を加え紹介したものである。時代を共にした来場者は見覚えのある品々に懐旧の念を強くしていた。

令和4年度も新型コロナの感染拡大の兆候がくすぶり続け、入館時の感染対策を行った。しかし、ウィズコロナ、アフターコロナをにらんで、徐々に入場制限を取り払う形で展示活動を行ってきた。多くの来場者を集めた「大恐竜展」においても特に感染の問題はおこらず、一同胸をなで下ろした。

令和3年度は新聞社と、令和4年度はテレビ局と特別展の実行委員会を組んだ。業務提携はコロナ禍でも十分な広報効果、集客効果があった。一方で、集客が増えることによって、50周年間近の博物館の展示室、駐車場がせまいという物理的な問題も浮上している。

#### 企画展ほか

◇企画展「深澤多市 - 郷土研究と真澄研究の偉業 -」 令和4年4月29日(金・祝)～7月3日(日)

##### < 展示概要 >

大正後期から昭和初期にかけて活躍した郷土史家・深澤多市(1874～1934)。その功績は、秋田県関係の古書を整理してまとめた『秋田叢書』の公刊や、戦国時代に県南地域を領知した小野寺氏の研究などで知られている。こうした活動の多くは横手町助役など、官吏としての生活を送る中で行われた。

秋田叢書には菅江真澄の著作が多数収録されている。それは当時における「菅江真澄全集」の様相を呈しており、その後の真澄研究の進展に大きく寄与することにも繋がる。そういった経緯から、令和2年6月、菅江真澄資料センターに深澤多市旧蔵資料が寄贈された。優に1万通を超える書簡類をはじめ、秋田叢書の原稿や叢書刊行会の名簿、また多市自身の学問の基礎となった漢詩文に関わる資料、さらには郷土研究の成果を示す刊行物など、実に多彩な資料である。これらは多市の逝去後、夫人から四代に亘って大事に保管されてきた貴重な資料である。

それらの資料を中心として、展示では多市の郷土研究と真澄研究の足跡について紹介した。



猫を抱く深澤多市

##### < 展示構成 >

- 第1章 深澤多市の生涯
- 第2章 『秋田叢書』の出版
- 第3章 漢詩文の学び
- 第4章 官吏生活の中で
- 第5章 地域の研究

担当：角崎 大(真澄)

◇特別展「『大恐竜展』秋田ー生命の鼓動を感じてー」 令和4年7月23日(土)～8月28日(日)

＜展示概要＞

近年、日本各地で恐竜の化石が発見され、注目が集まっているが、これまで秋田県からは見つかったことはない。また当館での恐竜に関する展示も常設の2点と自然展示室の可変展示コーナーで行ったことがあるだけであつたが、今回、秋田テレビから恐竜展開催の提案をいただき、実行委員会形式で大々的に開催することになった。動く巨大ティラノサウルス、荒木一成氏のリアル模型、亀井由美子氏のクラフト恐竜模型、写真撮影スポットにもなるトリックアートなど、バラエティに富んだ内容であつたが、当初の案では化石資料の紹介はわずかだつた。実行委員会での協議で館蔵の恐竜やアンモナイトなどの化石を加え、岩手県の恐竜化石と同時代の琥珀や植物化石を借用して展示することになった。また、来場者にアロサウルスの大腿骨やアンモナイトに触れていただくことにしたかつたが、新型コロナウイルスの流行のため取りやめた。展示に加え、わくわくたんけん室では恐竜VR体験や化石探しなどのワークショップを開催するとともに、ロビーの一角に恐竜関連グッズのショップを特設した。

夏休みの開催ということで、多くの家族連れで賑わつた。「料金が安い」などの厳しい意見もあつたが、「資料が近くて迫力があつた」「動くティラノサウルスに子どもがクギ付け」「いろんな恐竜を見られて楽しかつた」「再入場可能なのがありがたかつた」など満足された声も多く寄せられた。

秋田市の小学校3年生の担任の先生は「何人かの子どもたちが夏休みの絵日記に恐竜展のことを描いていた」とも話していた。特に印象深かつたのが、日を改めて二度入場された年配のご夫婦が「とても楽しくてまた来ました」とおっしゃつたことだ。恐竜は子どものみならず、多くの人を魅了することを再確認した。期間中、臨時開館日を2日設け、のべ32,285名が入場した。

主 催 大恐竜展秋田実行委員会  
(AKT秋田テレビ、秋田県立博物館)  
企画協力 株式会社マックエージェンシー



「大恐竜展」の展示風景

担当：大森 浩（地質）

◇企画展「秋田の縄文遺産」 令和4年9月24日(土)～11月6日(日)

＜展示概要＞

令和3年に「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産登録を果たし、県内の構成資産である大湯環状列石と伊勢堂岱遺跡には多くの来訪者が訪れ、活況を呈した。国際的に“JOMON”への関心が高まる中、県内における縄文遺物の代表格とも言える国・県指定資料が一堂に会する企画展を開催した。県内各地で保管されているこれらの資料を一度に見る機会はこれまで殆どなく、特に熱心な考古ファンから好意的な感想を頂戴した。

指定資料は時期と種別に偏りがあるため、未指定の関連資料をコラムの形で挟み込む展示構成とした。また、X線CT解析による調査成果を紹介する一方、江戸時代

まで遡る図絵や記録を一緒に並べたり、魚形文刻石を全て拓本で展示したりするなど、資料に関連する様々な記録を新旧取り混ぜた形で提示した。考古資料の継承に敬意を払いつつ、新しい技術や方法論がもたらす見方や考え方について、部分的ではあるが紹介する機会となった。

＜展示構成と主な展示資料＞

序章 秋田の縄文遺産

当館蔵の重要文化財である人面付環状注口土器をメインに、県内出土の人面付土器の類例と、『官暇余録』・『蓑虫仙人画記行』などの古い絵画資料を展示した。また、秋田県産業技術センターの協力を得て実施したX線

CT解析の調査成果について、断面および3D画像を編集して動画を作成し、モニターに表示した。資料とともに新旧の記録を取り混ぜた展示を冒頭に据えることにより、文化遺産の継承と研究の進展というテーマの印象づけを目論んだ。

## 1章 石に込めた祈り

当館蔵の重要文化財である大形磨製石斧とともに、類例の極めて少ない鋒形石器(山館上ノ山遺跡・八幡平字根瀬出土)を取り上げた。周囲に十分な余白を持たせた形で展示し、宝器とも呼ばれるこれら大型磨製石器の存在感を際立たせることに留意した。

### コラム 磨製石斧をつくる

大形磨製石斧の展示の近くに、磨製石斧製作遺跡である白館跡出土品を紹介するコーナーを設けた。

## 2章 漆工の精華

縄文時代晩期の低湿地遺跡として東北地方の中でも屈指の存在である戸平川遺跡と中山遺跡の出土品を取り上げた。漆工関係品がメインであるが、通常の遺跡では失われてしまう植物性遺物の数々を紹介する機会となった。

## 3章 海と川の恵み

県指定資料の中でも実物の移動の困難な魚形文刻石を全て拓本で展示した。拓本は伝統的な記録方法ではあるものの、ほぼ実寸であり、表面の凹凸が単純化され視認しやすいという利点がある。魚形を指でなぞって楽しむ観覧者の姿から、拓本は未だ有効な記録方法であることが確認できた。なお、拓本の一部は当館考古ボランティアの協力を得て製作したものである。このほかに、柏子所貝塚出土の骨角製品および貝製品を取り上げ、特にベンケイガイ製貝輪は未製品を含めて数多く展示し、全国でも屈指の製作地であることの周知を図った。

### コラム 日本海側最古の貝塚

日本海側の最古級かつ最北に位置する貝塚として、菖蒲崎貝塚の出土品を紹介した。

## 4章 土器の名品

単品で指定されている沢田遺跡出土鉢形土器と根子ノ

沢遺跡出土土器を紹介した。特に後者はアンバランスな器形と立体的な装飾が相俟って独特な造形美を発揮しており、多くの来場者の目にとまるところとなった。

## 5章 マツリの名残

世界遺産となった後期の大湯環状列石と伊勢堂岱遺跡に加え、晩期の白坂遺跡と麻生遺跡の出土品を壁面ケース一杯に展示した。多様な器種の土器や、特異な形状の祭祀関連遺物を通して、後期から活発となる縄文のマツリの姿に想像を巡らす機会になったと思われる。

## 6章 縄文の容貌

人の容貌をもつ造形品として、土面と土偶を紹介した。地方遺跡と戸平川遺跡から出土したいわゆる遮光器型土面は、土面の中でも再晩期に位置付けられており、その大きさや形状は土面の使用方法の変化を考える上で好例である。土偶は、伊勢堂岱遺跡出土例を除いた全ての県指定資料を紹介することができた。四面の展示ケースを使用して土偶を立てせ、様々な位置から眺められるように配慮し、来場者から好評を得ていた。

### コラム 縄文人と動物たち

6章における人の顔や体の造形に対し、漆下遺跡出土のクマ形土製品など、動物を模した造形品を紹介した。



3D画像をモニターに表示

担当：加藤 竜（考古）

◇企画展「新着・収蔵資料展 -戦時資料と鉄道資料-」 令和4年11月26日(土)～令和5年4月2日(日)

＜展示概要＞

秋田臨海鉄道資料、戦時資料など、近年寄贈された資料を中心に約250点の収蔵品を紹介した。数量的には歴史部門の古文書類が大部分で、一部、地質・民俗部門の資料を加えた。秋田臨海鉄道資料は同社から令和3年に寄贈されたもので、今回が初公開となった。

- ・秋田市及牛島町之図
- ・秋田藩士の文書 菅生家資料
- ・御用聞町人 升屋家資料
- ・秋田の鉱山資料 小林家資料
- ・ありがとう さようなら 秋田臨海鉄道資料
- ・大坂の陣はじまる 秋田藩重臣の書状
- ・県指定文化財 季吟・桂葉両吟百韻

＜展示構成と主な展示資料＞

- ・鍾馗図幟
- ・いま平和を想う 戦時資料
- ・今野賢三創作ノート
- ・北方教育社の同人 田村修二草稿集
- ・工事現場から見つかった化石 ナウマンゾウの骨
- ・藩主が村にやってくる 小泉村文書
- ・昇竜図
- ・昔の人はどんな本が好き？ 今林家資料
- ・理紀之助の仕事の跡 金足村適産調全図
- ・大地に刻んだ歴史 耕地整理図面
- ・価値が暴落 秋田藩の預札
- ・熊野神社資料
- ・秘湯の古文書 砂子沢出湯証文ほか



展示した戦時資料

担当：新堀道生（歴史）

◇菅江真澄資料センター 企画コーナー展

〔第88回企画コーナー展〕

雪の出羽路平鹿郡を読む

令和4年7月16日(土)～9月4日(日)－第1期－

10月22日(土)～12月11日(日)－第2期－

真澄は、文政7年(1824)から同12年(1829)にかけて秋田藩内の地誌編纂に取り組んだ。この地誌編纂は、真澄のそれまでの旅の中で得た知識や経験を生かした集大成ともいえる事業だった。当時の秋田藩六郡の中から藩の援助を受けて正式に地誌編纂をスタートさせたのが地誌《雪の出羽路平鹿郡》であった。これは、現在の横手市(旧横手・平鹿郡8市町村)に関する内容を全14巻にまとめた著作である。展示では地誌に記述された内容からいくつかを抽出して、第1期・第2期の二回に分け、旧横手・平鹿郡8市町村から各4市町村ずつを取り上げて紹介した。

＜展示構成＞

【1期】①地誌とは何か、②《雪の出羽路平鹿郡》の構成、③旧横手市について、④旧山内村について、⑤旧平鹿町について、⑥旧大雄村について

【2期】①旧大森町について、②旧雄物川町について、③旧十文字町について、④旧増田町について

＜展示資料＞

【1期】11点(以下、資料名のみ記す)

- ・《雪の出羽路平鹿郡》1、7、8、11、12、13、14巻
- ・銅錫杖頭(複製)・田村根子(実物)・『奥羽永慶軍記』
- ・神無月斗そで山てふ処にいたりて(軸装)

【2期】11点(以下、資料名のみ記す)

- ・《雪の出羽路平鹿郡》1、2、3、9、10巻
- ・子孫に与ふる遺書(卷子)・阿弥陀三尊板碑拓本(軸装)
- ・市姫ノ神(複製軸装)・龍鏡骨(実物)・猩々図・月山碑文

〔第89回企画コーナー展〕

真澄、はじめての秋田

令和5年3月25日(土)～5月14日(日)

各地を巡り歩き、旅に生きた真澄がはじめて現在の秋田県に足を踏み入れたのは天明4年(1784)のことだった。はじめて訪れた秋田で、真澄は何に興味をひかれ、どのような記録を残したのか。当時を知ることのできる日記2冊と初期の旅の写生帖1冊を展示の中心とし、真澄の目に映った秋田の風土、習俗、人々の姿などを紹介した。

〈展示構成〉

①はじめての秋田路ルート図、②《秋田のかりね》の旅、③《小野のふるさと》の旅、④《粉本稿》に見る秋田の風景

〈展示資料〉9点(以下、資料名のみ記す)

・《秋田のかりね》・《小野のふるさと》・《粉本稿》  
・《雪の道奥雪の出羽路》・《阿仁の沢水》・《男鹿の寒風》  
・象潟絵図・かんじき(実物)・毛笠(実物)

担当：角崎 大 (真澄)

◇秋田の先覚記念室企画コーナー展「武藤鉄城ー秋田の考古と民俗ー」 令和4年9月24日(土)～11月27日(日)

〈展示概要〉

令和4年度企画コーナー展では、秋田の民俗学の草分け的存在として、また考古学者、歴史学者、スポーツの指導者として多くの人から愛され、学問の枠にとらわれず、抜群の行動力と好奇心を発揮した文化人・武藤鉄城の生涯と功績を取り上げた。

展示では、鉄城の生い立ち、スポーツ、考古、民俗の分野に残された足跡など、127点の資料を紹介した。また鉄城のバイタリティにあふれながらも、丁寧な仕事ぶりが伝わるような展示構成を心がけた。

付帯事業講演会への参加者も多く、コロナ禍の状況下にもかかわらず、約40名の方に御参加いただいた。展示も含め、武藤鉄城の功績と人となりを知っていただく機会となった。

開催にあたっては、武藤鉄城の孫娘の鈴木亮子氏、秋田県埋蔵文化財センター元所長小林克氏、仙北市立角館樺細工伝承館元館長中田達男氏、神奈川大学日本常民文化研究所にご支援、ご協力をいただいた。

〈付帯事業〉

秋田の先覚記念室講演会「対談 鉄城の考古と民俗」

令和4年10月30日(日)

講師

小林 克氏 (秋田県埋蔵文化財センター元所長)

中田達男氏 (仙北市立角館樺細工伝承館元館長)



展示の様子



講演会の様子

担当：齋藤知佳子 (先覚)

〈展示構成〉

- 1 文筆への傾倒
- 2 スポーツマン・鉄城
- 3 考古・歴史研究
- 4 民俗研究とフィールドワーク
- 5 戦中から戦後へ

◇可変展示

〔自然展示室〕

「これなに？葉っぱについた丸い“こぶ”」

令和4年10月15日(土)～令和5年10月3日(火)

「虫えい」をテーマにした展示を行った。展示資料は春から秋にかけて採集し、虫えい内部を撮影した後に、すべて乾燥標本にした。虫えいの一部は液浸標本にして実際の大きさを見ていただいた。植物を利用して生命を繋ぐ小さな昆虫の世界を写真と標本で紹介した。

〈展示構成〉

①こぶの正体、②植物を操る、③見つけたよ！いろんな形のゴール

〈展示資料〉計10点

シナノキハツノフシ・エゴノネコアシ・ウダイカンバムレトサカフシ・マンサクメイボフシ・ヌルデミミフシ・クリメコブズイフシ・ナラメリングフシ・アオキミフクレフシ・マタタビミフクレフシ・ササウオフシ



展示の様子

担当：藤中由美（生物）

〔人文展示室〕

「鏝野目久米蔵コレクション」

令和4年8月2日(火)～令和5年7月30日(日)

鏝野目久米蔵コレクションとは、同氏が当館に寄贈した792点の考古資料のことをいう。本展ではその膨大な資料から一部を紹介した。展示は、前期(令和5年2月10日まで)と後期(令和5年7月30日まで)に分け、前期は

秋田県各地から採集した縄文晩期の土器を、後期は新屋浜貝塚で採集した食に関連する資料を展示した。

〈展示資料〉

秋田県内各地(鹿角市・大館市・北秋田市・三種町・五城目町・秋田市)で採集した縄文晩期の土器(注口・台付鉢形等)6点、新屋浜貝塚より採集した石器9点、骨角器7点、自然遺物(獣骨・貝殻・炭化クルミ)83点（すべて館蔵）

担当：渡部 猛（考古）

〔ふるさとまつり広場〕

今年度は、民俗部門が季節ごとにテーマを決め、秋田の風俗や祭り・行事についての展示を行った。

・子どもの成長を願うー鹿島船ー

令和4年4月21日(木)～6月21日(火)

・夏のまつりー七夕絵どうろうー

7月7日(木)～8月31日(水)

・巧みな手仕事ー刺し子ー

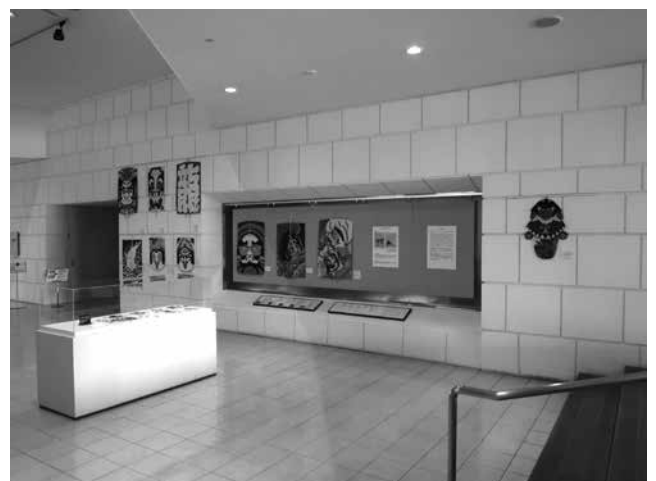
9月29日(木)～11月15日(火)

・昔の遊びー秋田の凧ー

12月1日(木)～令和5年2月7日(火)

・春の訪れーひな人形・押し絵ー

2月22日(水)～4月4日(火)



「秋田の凧」展示の様子

担当：丸谷仁美・深浦真人（民俗）



#### ◇出張展示、他施設との連携展示

①「絵葉書にみる昔の秋田」 (秋田県立図書館)  
令和4年4月8日(金)～5月24日(火)  
観覧者数：6,449人

②「真崎コレクション展 菅江真澄著作の紹介」  
(大館市立栗盛記念図書館)  
令和4年11月2日(水)～11月13日(日)  
観覧者数：42人

#### ▶ 展示室の保守管理状況

展示室の温湿度の測定、照明・映像・音響機器などの点検を実施し、不具合がある場合はその都度対応した。企画展示室ケース開口部の電動器具の故障、常設の展示室に設置されている映像機器の老朽化が顕在化している。

昨年度からの館内デジタル化推進により大型モニターが導入され、映像によるプレゼンテーションの充実が期待される。

#### ▶ 解説案内サービス業務

解説員研修、企画展研修、月例会記録、団体対応、情報収集、Q&A作成を分担して実施した。団体見学は、コロナ感染症の県警戒レベルに応じて柔軟に対応し、可能な範囲で来館者の要望に応えるよう心がけた。

例年行ってきた解説員館外研修は、昨年度と同様中止した。解説員冬季研修では学芸主事によるアドバイスのもと、解説シナリオの作成と解説実践を行い、技能の向上を図った。

#### ▶ 分館（旧奈良家住宅）

主屋（重要文化財）を令和4年4月1日から令和5年3月31日まで公開した。また附属屋(登録有形文化財)も外観のみ同期間公開した。9月30日は秋田市金足黒川に

ある三浦館(重要文化財)の見学とあわせ、学芸職員が母屋および附属屋の解説を行い、10月2日には和風住宅であきた民話の会の方々による昔がたりを行った。

## 4 教育普及活動

令和4年度の館内及び館外講座は、博物館教室やミュージアムトークなどの各講座を予定通り実施することができた。博物館教室(名誉館長館話含む)については昨年度よりも参加者数が増となり、今年度は特別展に付帯する講演会等を実施していないものの館内講座全体としての参加者数も増となった。館外講座については出前講座の参加者数が減となったが、全体としての参加者数は昨年度と比べて増となった。

イベントは4月下旬に予定していた「軒の山吹」再現が新型コロナウイルス感染防止の観点から中止となったものの、3月には4年ぶりとなるミュージアムコンサートを開催することができた。また開館以来の入館者数が400万人に達し、記念セレモニーを6月2日に開催した。

博物館等類似施設との連携では、秋田県博物館等連絡

協議会加盟館の燻蒸サービスを例年通り実施し、また、昨年、一昨年とオンラインで行っていた実務担当者研修会を、当館を会場にして開催することができた。秋田市内文化施設連絡会議(みるかネット)の事業であるイベント通信は、予定通り年2回発行し、昨年は新型コロナウイルス感染症対策のため中止となっていたギャラリートークセッションも実施することができた。

「友の会」とボランティア「アイリスの会」については、新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じて、活動できる範囲で対策を講じながら各部門に関するボランティア活動等を実施した。

また、大学生の博物館実務実習や中堅教諭等資質向上研修等にも対応した。

## 普及事業

### ◇館内講座

平成30年度より、博物館教室をはじめ館内で行われる普及活動全般について、普及・広報班が取りまとめて把握する形としている。内訳は以下のとおり。

①博物館教室	76回	862名
②イベント等	1回	110名
③展示付帯事業等	1回	27名
④ミュージアムトーク	8回	85名

①博物館教室の内訳は別表のとおり。受講者同士の密を避けるなど、新型コロナウイルス感染防止に充分留意した対策を行いながら教室を開催した。②イベントについては、4年ぶりに2階ロビーにおいて、早川泰子氏によるジャズコンサートを開催した。③展示付帯事業については、特別展「大恐竜展秋田」開催初日に開会式を行った。

	教室名	回数	人数
1	化石と地層の観察会	2	37
2	昆虫教室～採集と標本づくり～	2	32
3	「真澄に学ぶ教室」講読会	20	240
4	初級者向け 秋田の歴史教室（戦国～桃山編）	2	22
5	初級編 北東北秋田の縄文を学ぼう	3	15
6	三浦館・旧奈良家住宅の見学会	1	8
7	旧奈良家住宅で昔語り	1	12
8	地域回想法	2	12
9	土器作り教室	2	30
10	初めての古文書解読	6	81
11	民俗学入門講座	2	22
12	初めての藍の絞り染め	7	38
13	綿を紡ぐ	7	41
14	木工芸 木のオブジェづくり	1	9
15	からむしを紡ぐ	5	35
16	ゼロからはじめるワラ仕事	3	13
17	木工芸 Christmas Ornament	1	10
18	秋田の工芸 モノ考	1	12
19	男鹿に伝わるトジナの技術	1	12
20	「真澄に学ぶ教室」講演会	1	45
21	秋田の先覚記念室講演会	1	30
合計		71	756

	名誉館長館話	回数	人数
前期	秋田の中世武将と近世学者	3	67
後期	秋田近世の学者	2	39
合計		5	106

### ◇名誉館長館話

令和4年度の名誉館長館話は以下のテーマで行われた。

- ・前期『秋田の中世武将と近世学者』
  - ① 5月20日(金)「中世秋田武将の諸相」
  - ② 6月17日(金)「佐藤信淵Ⅰ」
  - ③ 7月15日(金)「佐藤信淵Ⅱ」

・後期『秋田近世の学者』

④ 9月16日(金)「平田篤胤Ⅰ」

⑤ 10月14日(金)「平田篤胤Ⅱ」

令和2年度・3年度は、新型コロナウイルスの影響で実施が延期となったり中止となったりすることがあったが、今年は予定通り全ての回を実施することができた。受講者はのべ106名であった。

### ◇イベント等

・『軒の山吹』再現

例年4月下旬に博物館ボランティア「アイリスの会」会員の協力により、江戸時代の紀行家・菅江真澄の図絵に描かれた風習を分館旧奈良家住宅に再現していたが、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み中止とした。

・入館者400万人達成セレモニー 6月2日2Fロビー

昭和50年開館以来の入館者が400万人に達し、記念セレモニーを開催した。400万人目の来館者となった潟上市にお住まいのご夫妻に記念品として特別展のペアチケットとオリジナルグッズのセットを贈呈した。



入館者400万人達成記念セレモニーの様子

・ミュージアムコンサート「早川泰子の“JAZZで巡る世界の旅”」 3月21日(火・祝)2Fロビー  
 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から3年間中止となっていたミュージアムコンサートを再開した。普段はロビーに展示している進駐軍が使用していたピアノを活用したジャズコンサートを110名の参加者に楽しんでいただいた。



ミュージアムコンサートの様子

#### ◇ミュージアムトーク

令和3年度と同様に、令和4年度も感染対策をとりながら、企画展等の解説に限定してミュージアムトークを実施した。上半期のうちは次のような感染対策をとった。

- ・会場に応じて定員(20名程度)を設定し、開始30分前から受付を実施する。
- ・受付では参加者に氏名と連絡先の記入を求める。
- ・実施中は参加者同士が互いの距離を保つように、担当者から注意を促す。

### ▶ 他施設・他団体との連携

#### ◇秋田県博物館等連絡協議会(略称：秋博協)

##### (1) 役員会、総会

新型コロナウイルス感染の再拡大に伴い、令和2・3年度同様、書面会議にて実施した。6月上旬に総会資料を加盟館に発送し、加盟館から寄せられた質問・意見について事務局から回答を送付した。

##### (2) 実務担当者研修会

3月9日(木)

会場：秋田県立博物館学習室(20館38名)

講師：浜中 千春 氏・佐藤 博功 氏

(凸版印刷株式会社 東日本事業本部)

演題：「博物館法改正に伴うデジタル技術の活用」

##### (3) 燻蒸消毒サービス

8月23日(月)～30日(月)

なお下半期に入ると、県による感染対策の見直し等を踏まえ、受付は実施せず、参加人数の把握のみにとどめた。万が一、定員を超過した場合には、同日内で2回目の開催も想定していたが、参加人数が20名を大幅に上回ることはなく、いずれの開催日も1回のみの実施で終わった。年間を通じて8回開催して85名の参加が見られたが、この他にも事前申し込みのあった団体来館者に対して、企画展の解説を別途実施した。

#### ◇館外講座

平成29年度より、県庁出前講座を含めて館外で行われる普及活動を、普及・広報班が取りまとめて把握する形としている。全体で10回実施され、受講者の延べ人数は352名であった。

令和3年度には新型コロナウイルス感染拡大の影響により、講座の延期、中止、リモート開催への変更が発生したが、令和4年度は全て予定どおり実施することができた。

①出前講座	4回	115名(前年度8回464名)
②出張講座	5回	72名(前年度5回107名)
③連携講座	1回	165名(前年度1回157名)
④その他	0回	0名(前年度0回0名)

なお、①県庁出前講座の内訳は次のとおり。

・博物館の魅力について	1回
・博物館資料から考える秋田の原始・古代	0回
・秋田のくらし・行事	2回
・秋田県の生きもの	1回

利用：9館 潟上市郷土文化保存伝習館、秋田市立千秋美術館、本荘郷土資料館、由利本荘市矢島郷土文化保存伝習施設、仁賀保勤労青少年ホーム、花火伝統文化継承資料館、美郷町学友館、後三年合戦金沢資料館、羽後町歴史民俗資料館

(4) 秋博協ホームページ「あきた文化的施設案内処」各加盟館が掲載内容を随時更新した。

(5) 会報の発行『秋博協だより』第57号

600部を令和5年3月に印刷し、加盟館に配布した。今号の発行をもって廃刊とする予定である。

加盟館数：53館(令和5年3月31日現在)

#### ◇博物館「友の会」

##### (1) 役員会・総会

新型コロナウイルス感染対策のため、開催せず。

##### (2) 各種研修会

新型コロナウイルス収束の見通しが立たず、令和2・3年度に引き続き、令和4年度も実施しなかった。

##### (3) 各ボランティアによる活動

感染対策に留意しつつ、年間を通じて活動を継続することができた。

- |                   |         |
|-------------------|---------|
| ・古文書整理ボランティア(10名) | 隔週水曜日活動 |
| ・秋田古文書同好会(15名)    | 第三金曜日活動 |
| ・植物標本ボランティア(12名)  | 毎週火曜日活動 |
| ・考古ボランティア(10名)    | 隔週土曜日活動 |
| ・地質ボランティア(2名)     | 随時活動    |

##### (4) 友の会だより

- ・第52号(3月刊行、A4判両面カラー250部)

##### (5) 印刷物等配布 4回

7月1日、8月31日、11月18日、3月31日

会員数：130名(令和5年3月31日現在)

#### ◇博物館ボランティア「アイリスの会」

博物館ボランティア「アイリスの会」は、お話し・織・図書・薫・藍の5チーム編成で活動に取り組んでいる。

今年度は新型コロナウイルスの感染対策に十分配慮しながら、徐々に活動を再開した。7月、9月、10月、1月、2月、3月には定例会を行うことができた。

お話しチームは、3月にわくわくたんけん室において4年ぶりに「おはなし会」を開催した。また、名誉館長館話、講演会の受付サポートを行った。

織チームは、わくわくたんけん室に展示する機織り用の経糸を3種類(紫紺、茜、マリーゴールド)染めた。

図書チームは、図書資料の整理(考古図書も含む)、また、会員通信「時計」の編集・発行を行った。

薫チームは、ワラ細工の製作技術研修を毎月1回実施し、博物館教室のワラ細工体験を支援した。

藍チームは、絞り染めの製作技術研修を4月から12月まで月1回実施した。また、セカンドスクールで来館した高校生への絞り染めの支援や博物館教室の絞り染め支援を行った。

会員数：36名(令和5年3月31日現在)

#### ◇その他団体(みるかネットなど)

秋田市内にある公的文化施設のネットワークである秋田市内文化施設連絡会議(みるかネット)に当館も加盟している。国際博物館の日にちなんで各館同一日に開催するギャラリートークセッションが5月14日に実施され、当館では企画展「深澤多市ー郷土研究と真澄研究の偉業ー」の展示解説を行った(参加者3名)。同会議によるイベント通信は年2回発行し、館内に設置した。

また、放送大学秋田学習センターとの連携事業として10月15日に当館の講堂を会場として講演会を実施した。

(参加者34名)

### ▶ 博物館における実習・研修

#### ◇博物館実習

令和4年度博物館実務実習は、8月25日(木)~26日(金)、8月30日(火)~9月2日(金)までの6日間、千葉科学大学、米沢女子短期大学、日本大学、石巻専修大学、東北芸術工科大学、長岡造形大学、秋田公立美術大学、新潟大学の10名の実習生を対象にして実施した。新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、実務実習を受講する学生には、実習開始日の10日程度前から検温や風邪症状の確認をしてもらい、また実習当日には陰性証明書の提出を依頼した。実習は講義形式で学ぶものと、資料を取り扱ったり、博物館の展示を企画立案したりする体験的なものの二つに分けて行った。

#### ◇中堅教諭等資質向上研修

8月3~5日の日程で、秋田西高等学校、秋田工業高等学校、仁賀保高等学校、土崎南小学校の教諭4名を受け入れた。

研修内容は、2日目は「教員のための博物館の日」に参加して、各展示室及び分館の見学、たたみ染めや模擬セカンドスクールの体験活動を行い、1日目・3日目は収蔵庫等の見学と、博物館教室に参加して普及活動の体験を行った。

博物館での研修で得られた経験が、今後の職場で活かされることを願っている。

#### ◇各種視察研修対応

大学等各種団体の視察・研修について、全体で7回、87名を受け入れた。

- ・秋田看護学校 5月17日・11名
- ・青山学院大学 8月3日・4名

- ・秋田公立美術大学 7月21日・3名
- 7月22日・3名
- 7月31日・15名
- 9月28日・28名
- 10月22日・23名

### 博物館活動の記録・整理

#### ◇博物館活動の記録・整理

令和4年4月から令和5年3月までの一年間、新聞や雑誌等に当館の活動に関する記事が43件掲載され、県内外に広く伝えられた。掲載記事は記録集にまとめ、館職員が常時利用できるようにするとともに、年2回行われる博物館協議会において委員へ配付した。

新聞や雑誌等をはじめ、マスコミに対しての情報提供の内容や時期等について検証し、利用者増につながる広報活動により、当館の魅力を一層広めていきたい。

#### ◇レファレンス

博物館では、所蔵する資料や秋田の文化や自然などに関する質問を受けている。令和4年度の県内外からの各部門等に対しての問い合わせ件数は次のとおりである。考古10件、歴史22件、民俗7件、工芸6件、生物37件、地質12件、真澄8件、先覚9件、その他6件。

## 5 広報出版活動

特別展・企画展に関するポスターやチラシについては、展示内容に合わせてより効果的な広報先を検討し、関連団体等に重点的に配布した。また、プレスリリースにより各報道機関への情報提供に努めた。

SNSは、利用者の立場に立った魅力的なコンテンツを提供することに努め、展示・イベント等にあわせて頻度の高い投稿を行った。

ホームページについては、県のデジタル化推進の一環

としてリニューアルの準備を進めてきた。制作委託先との協議を重ねて、より親しみやすく使いやすいように構成やデザインを全面的に刷新し、令和5年2月1日より公開している。

館内における広報については、1F、2Fの各受付に設置しているデジタルサイネージにより、来館者にわかりやすく情報を伝えることができた。

### 広報活動

#### ◇広報計画の策定と実施

広報は特別展・企画展の開催および燻蒸消毒に伴う休館の周知に合わせ年5回の定期発送の計画を策定した。この定期発送では、各展示のポスター・チラシのほか当館が発行した印刷物を、県内の学校、図書館、公民館などの公共施設や道の駅などの観光施設、また県内外の博物館などにも発送し、掲示を依頼した。

また、定期発送は展示の情報が事前に周知されるよう、展示開始の1か月前を目処に発送時期を設定した。ポスター等の納期に合わせた準備や各担当者からの協力もあり、概ね予定通りの発送を行うことができた。

#### ◇その他の広報活動の実施と改善

特別展・企画展の開催前には各報道機関にプレスリリースを行い、情報の周知を図った。その他にも、入館者40万達成記念セレモニーやミュージアムコンサートの開催についてもプレスリリースを行い、合わせて6回行った。広報の甲斐あってか、特別展・企画展及び各イベントでは、報道機関から取材があり、テレビや新聞等で紹介された。また県教育委員会の広報誌「教育あきた」、県広報紙「あきたびじょん」、県公式ウェブサイト「美の国あきたネット」等への掲載も行った。今後も多様な広報の在り方について検討していきたい。

## ▶ 出版物の刊行・配布

### ◇展示ポスター

企画展「深澤多市－郷土研究と真澄研究の偉業－」	B 2判	1,200部
特別展「大恐竜展秋田－生命の鼓動を感じて－」	B 2判	1,200部
企画展「秋田の縄文遺産」	B 2判	1,200部
企画展「新着・収蔵資料展－鉄道資料と戦時資料－」	B 2判	1,200部

### ◇展示広報チラシ

企画展「深澤多市－郷土研究と真澄研究の偉業－」	A 4判	20,000部
特別展「大恐竜展秋田－生命の鼓動を感じて－」	A 4判	20,000部
企画展「秋田の縄文遺産」	A 4判	20,000部
企画展「新着・収蔵資料展－鉄道資料と戦時資料－」	A 4判	20,000部

### ◇展示解説資料

企画展「深澤多市－郷土研究と真澄研究の偉業－」	A 4判	12頁	800部
秋田の先覚記念室企画コーナー展 「武藤鉄城－秋田の考古と民俗－」	A 4判	8頁	1,000部

### ◇広報誌

博物館ニュースNo.175・176	A 4判	8頁	各2,300部
広報紙「真澄」No.40	A 4判	8頁	1,500部

### ◇報告書等

年報 令和4年度	A 4判	47頁	800部
秋田県立博物館研究報告第48号	A 4判	102頁	500部
真澄研究第27号	A 5判	102頁	500部

## ▶ インターネット利用

令和4年度のホームページアクセス数は約6万6千回であった。GW期間中や特別展会期中を中心にアクセス数が大幅に増えたため、昨年度と比べると約1万8千回増加しており、集計を取り始めた平成20年度以降で最高値を記録している。

また令和4年度は、「教育機関におけるデジタル化推進事業」の一環として、外部業者へ業務委託を行いウェブサイトのリニューアルに取り組み、構成やデザインを

一新した。新しいウェブサイトは令和5年2月1日より公開した。

電子メールについては、県内外からの様々な申請や問い合わせ、博物館教室や講演会などの申し込みなどがあり、担当者が定期的にチェックして対応している。また、外部とのデータのやり取りで使用頻度が上がってきている。

## 6 学習振興活動

学習振興では、体験型展示室の運営と学校団体の受け入れが活動の中心となっている。

体験型展示室のわくわくたんけん室は、新型コロナウイルス感染予防対策により、5月31日まで閉室したが、その間に展示室内の清掃および環境改善に努めた。また、制限しながらアイテムを提供しつつ、室内の一部でミニ展示コーナーを設けた。また学芸職員がアイテムの説明を行うイベント等を今年度から実施した。

学校団体の受け入れについては、年間を通して中止することなく実施した。アルコールによる手指消毒や展示室内の利用人数を制限することによって、密集・密接を回避しつつ、受け入れを行った。また中学校職場体験や高校生インターンシップ・ボランティア活動については中学校や高校からの要望に応えながら実施した。

## ▶ わくわくたんけん室の運営

### ◇一般及び団体利用への支援・指導

わくわくたんけん室は、多くの家族連れが訪れる体験型の展示室であり、子どもたちの来館目的の1つにもなっていた。

令和4年度も新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、4月1日から5月31日まで閉室としたが、6月1日から開室した。令和4年6月から令和5年3月までの利用者は2,380名となった。

わくわくたんけん室は、次のよう到来館者に対応した。

#### ◆令和4年6月～令和5年3月

##### わくわくたんけん室

- ・開室時間 午前9:30～11:30  
午後13:30～15:30
- ・入室定員 上限40名



わくわくたんけん室の様子

### ◇室内・体験アイテムの保守管理

令和2年から続く新型コロナウイルスの動向を見ながらの対応に迫られた1年であった。年度当初の4・5月はわくわくたんけん室を閉室して室内の環境整備に努めた。

来館者が触れて体験できる宝箱を棚に収容し、工芸資料を展示した。また、棚の中や宝箱の中を点検した。その際、シバンムシ等の害虫を確認した。そのため棚の中や宝箱を徹底的に清掃した。その後も定期的に点検をした。しかし、6月1日に棚の中を点検したところ、シバンムシの死骸があったため、棚の上部まで確認した。

棚の最上部にはお手玉があり、お手玉の中に入っていた小豆の周りに大量のシバンムシの死骸があった。その後、棚の最上部に掃除機をかけ、消毒をした。さらに、8月の下旬から11月中旬には燻蒸業者と契約し、虫を誘

き寄せるトラップを室内に置き経過を観察した。大量にシバンムシの死骸が発見された6月以降、定期的に点検や清掃を行ったため、シバンムシ等の虫は激減した。

室内での利用については、使用後速やかに座席や机、道具類の消毒作業をした。

### ◇宝箱及び体験アイテムの改善・開発

今年度は新型コロナウイルスの流行に伴い、自由に手に触れて体験できる宝箱は、セカンドスクールの利用時のみ設置した。その日の利用者の年齢に合わせて棚から8～10の宝箱をテーブルに設置した。宝箱の数が限定されたことにより、子どもたちの遊んでいる様子を近くで見ることができたことは、今後のアイテム等の改善・開発に有効なヒントを得る機会となった。セカンドスクールで利用した子どもが土日に家族と一緒に訪れ、宝箱を使えないことを残念がっていた。宝箱がわくわくたんけん室のアイテムとして長年、親しまれてきたことを改めて実感する機会となった。また、紙ひごでつくるコマやイタヤ馬、そして今年の干支の兎も新メニューに加え、作成手順を解説したシートの検討も重ね準備した。

今後も状況に応じて、密を避け、消毒の徹底を行うなどの対策をとりながら、幼児から一般の方までの来室者が安心して体験できる「秋田県立博物館ならではの体験アイテム」について、各部門からの協力を得て準備を進めていきたい。

### ◇休日アイテム

令和4年度から、学芸職員が専門分野を活かした休日イベントを実施した。新型コロナウイルスの感染拡大予防に伴い、回数は限られたものの、展示室と連携したイベントを企画し、アイリスの会の方々にも協力いただきながら実施した。

今年度行った休日イベントは次のとおりである。

#### ◆6・7月の土日 たたみ染め

(午前10:00～11:30 午後13:45～15:15)

- ◆11月20日 藍のわくわく染め体験
- ◆12月17日 初心者でも楽しめる飾り結び
- ◆3月24日 わくわく科学実験教室
- ◆3月25日 藍のわくわくTシャツ染め
- ◆3月26日 和紙でたたみ染め体験
- ◆3月26日 動物のあしあとレプリカ作り

◇出張わくわくたんけん室

- ・3月5日(日) 自然科学学習館イベント：サイエンスフェスティバルⅡ、会場：アルヴェ、職員2名派遣、たたみ染め体験100名参加

新型コロナウイルス感染症対策から、たたみ染め体験のみの実施となった。参加者から紙や染料について質問され、次は博物館に来館し、再度体験したいという声も聞かれるなど好評であった。

▶ 学校団体による博物館利用の支援

◇セカンドスクールの利用

年度当初、学校団体の対応について見直した。学芸職員の負担軽減と解説員の解説技能の向上のため、昨年度まで学級ごとに学習振興班員が引率して展示室の概要説明を行っていたものを、今年度からは解説員にも担当してもらい、原則学校1校に1名の学芸職員で担当することとした。当初、解説員の団体担当と毎週打ち合わせしていたが、団体予定表を確認し合うことでスムーズに進めていけるようになった。昨年度は班員5名での対応であったが、今年度は大部分を学校対応担当2名で対応できた。ただ、小学校3年生の「昔のくらし」には分館見学や学習室での昔の道具説明など民俗担当学芸職員の対応が必要なのだが、今年度民俗担当2名が学習振興班所属となったため、この2名の負担が大きかった。

令和3年度と比較して校数は増えたものの人数は減少した。これは昨年度コロナの影響で、県内の修学旅行の利用が25校だったのが、今年度は14校とコロナ前の旅行先に戻った学校が増えたことによるものと思われる。

	令和4年度		令和3年度		令和2年度	
	学校数	利用人数	学校数	利用人数	学校数	利用人数
幼稚園・保育所	10	310	13	428	3	109
小学校	72	3,481	83	4,235	87	4,257
中学校	23	547	16	568	16	863
高等学校	26	306	11	481	4	230
特別支援学校	5	102	4	83	0	0
その他	0	0	1	23	0	0
合計	136	4,746	128	5,818	110	5,459

◇出前授業

- ・令和4年度 15校16件660名(令和3年度271名)

昨年度はコロナウイルスにより利用が少なかったが、今年度は大幅に増加している。これは、コロナウイルスによる規制が緩和されたことに加え、先覚関連と潟上市キャリアスタートウィーク事業で中学1年生に対しての博物館業務の紹介の利用があったことによる。

- ◆小学校3年生 …… 民俗(昔の道具) 1件
- 4・6年生 …… 先覚(天野芳太郎) 3件
- 4年生 …… 民俗(秋田の祭・行事) 1件
- 6年生 …… 地質(大地のつくり) 1件
- 6年生 …… 工芸(しめ縄作り) 1件

- ◆中学校1年生 …… 博物館の仕事 3件
- 1年生 …… 歴史(北前船) 1件
- 1年生 …… 生物(秋田の生き物) 1件
- ◆高校 1年生 …… 博物館の仕事 1件
- 2年生 …… 工芸(能代春慶) 1件
- 2年生 …… 工芸(秋田の衣食住) 1件
- 3年生 …… 工芸(藍染め体験) 1件

◇高校生インターンシップ・中学生職場体験

- ・インターンシップ：25名(令和3年度8名)
- 高校2年生……能代・1名2日間、令和・1名2日間、金足農業・3名3日間、男鹿工業・3名3日間、北鷹・1名3日間
- ・職場体験：20名(令和3年度6名)
- 中学校2年生……秋田北・3名2日間、天王南・3名4日間、下北手・2名1日間

令和3年度はコロナウイルスによるキャンセルがあり、利用者は少なかったが、少しずつコロナ前の数に戻ってきている。夏休み期間中のインターンシップでは、特別展「大恐竜展秋田」を開催していたことから、もぎり補助の業務が例年になく特徴だった。各班・部門に協力をお願いしているが、学習振興班職員に関連した業務が多い。主な業務内容は、わくわくたんけん室棚清掃、わくわくたんけん室消耗品補充、先覚記念室資料整理、分館資料調査・清掃、民俗資料整理、地質資料整理、特別展もぎり補助、アンケート集計、イベント会場設営などである。インターンシップや職場体験を見込んで班・部門の業務計画を立てることは難しいため、利用者が予想していた業務とはならなかったかもしれない。

◇教員のための博物館の日

- ・8月4日(木) …… 参加者18名(令和3年度12名)
- 参加者内訳
- 通常申込：6名(小4、高1、特別支援1)
- 中堅教員研修：4名
- 総合教育センター：8名(研修員5・指導主事3)



通常の申込が昨年度から大幅に増え、コロナ対策に注意を払いながら開催した。令和4年度はサブタイトルを「先生方にこっそり教える博物館の魅力」として、人文・自然展示室で考古・歴史・地質・生物の担当から資料についての解説を盛り込んだ。このことがアンケートでの好印象につながったと思われる。菅江真澄資料センターと秋田の先覚記念室の見学は日程に組み込まず、自由見学の時間を設けた。昨年度行っていたわくわくたんけん室での体験活動は、同室が「大恐竜展秋田」のワークショップで使われたため、とり止めた。また、研修と

して出前授業「秋田の先覚者 天野芳太郎」を組み込んだ。この出前授業は9月以降3件申込があった。

反省点として、昼前に旧奈良家住宅に徒歩で移動された参加者の1人が体調を崩し、午後の日程に参加できなくなってしまった。事前に車での移動を勧める必要があった。

8月第1週で教育課程など様々な研修がある中、この行事に参加された方々に少しでも有意義な時間を過ごしていただくよう今後もよりよい活動を目指したい。

## 7 館外活動

◇執筆(著書・論文など、「研究報告第48号」は除く)

- ・山本丈志  
「アート交差点(エッセイ)」(秋田魁新報令和4年5月より連載)  
「あきた文化シーン2022美術(評論)」(秋田魁新報)

- ・斉藤洋子  
「秋田県における伝統工芸－失われゆく工芸－」  
(出羽路163号)

◇講演・講座など

- ・山本丈志  
「木のオブジェをつくろう」(あきた文化交流発信センターふれあーるAKITA)  
「雑木で創るクリスマスオブジェ」(秋田市農山村地域活性化センターさとびあ)
- ・角崎 大  
「初学者のための菅江真澄の話」(秋田市農山村地域活性化センターさとびあ)  
「真澄が記録した秋田市」(秋田市農山村地域活性化センターさとびあ)  
「真澄が記録した男鹿市」(男鹿つわぶきの会)  
「菅江真澄遊覧記から男鹿にまつわる話Ⅱ」(旭水会男鹿支部)  
「真澄の暮らした秋田市」(菅江真澄研究会)

◇委員委嘱

- ・新野直吉  
史跡払田柵跡調査指導研究委員(委員長)  
後三年合戦(役)等関連遺跡整備指導委員会特別委員  
由理柵・駅家研究会顧問
- ・渡部 均  
大館市文化財保護審議会委員  
男鹿半島・大潟ジオパーク推進協議会アドバイザー
- ・藤原尚彦  
大潟村干拓博物館協議会委員
- ・新堀道生  
由利本荘市文化財保護審議会委員  
文化財収録作成調査委員
- ・丸谷仁美  
横手市文化財保護審議会委員  
湯沢市文化財保護審議会委員  
由利本荘市民俗芸能伝承会運営協議会委員  
秋田の郷土食調査委員会委員  
八戸地方えんぶり調査委員会調査員
- ・加藤 竜  
大館市文化財保護審議会委員

## 8 令和4年度のあゆみ

### ◇防災訓練 5月19日(木)

本館及び分館において地震発生を想定した避難訓練、通報訓練、消火訓練等を実施した。

### ◇第1回秋田県立博物館協議会 8月5日(金)

令和4年度の事業計画を報告した。協議事項として、開館50周年に向けた博物館の将来展望について委員から意見を伺い、「デジタルを活用した学習ツールの必要性に加え、実体験を伴ったセカンドスクールの利用や保護者と一体になった学習の場の提供を望む」などといった意見が出された。

### ◇応急手当講習会 12月1日(木)

土崎消防署救急救命士を講師に招き、心肺蘇生法の手順とAEDの操作方法の講習会を実施した。

### ◇文化財防火デー防災訓練 1月19日(木)

1月26日の文化財防火デーに因み、重要文化財である旧奈良家住宅(分館)において、火災発生を想定した避難訓練、通報訓練、消火訓練等を実施した。

### ◇第2回秋田県立博物館協議会 2月15日(水)

今年度事業の経過と次年度事業の計画案を報告した。令和4年度ミュージアム活性化事業「大恐竜展」の評価について協議を行い、委員から次の意見が出された。

- ・メディアによる広報活動と親子で参加できる催しにニーズがあったことにより高い集客に繋がった。
- ・内容的に物足りないという評価もあるが、博物館に人を呼ぶことも課題であり、対象の特化が必要な場合もある。
- ・限られた展示スペースでのデジタルコンテンツの活用やお金をかけない情報発信の強化、地域振興に繋がる取組などを進める。

### ◇博物館におけるデジタル化の取組

コロナ禍において、来館者との接触を最小限に抑える中で、デジタルコンテンツ等の充実を図り、インターネットを介し、博物館の知見と情報を提供できる環境を整備した。

- ・ウェブサイトのリニューアル(令和5年2月1日から公開)
- ・資料のデジタルアーカイブ化を進めるための、デジタルコンテンツ生成システムの構築(令和4年度作成コンテンツ数20点)
- ・コンテンツ作成用パソコン、デジタルカメラの整備
- ・展示解説用大型モニターの設置
- ・情報提供や展示解説用のノートパソコンやタブレット端末機の設置

### ◇コロナ禍における博物館の運営

県のコロナ対策の方針を基本に、県コロナ感染警戒レベルに合わせ、館の対応をその都度変更し対応した。

- ・令和4年6月からはこれまで閉室していた体験型展示室である「わくわくたんけん室」を開室した。
- ・令和4年5月までのイベントで一部中止したのもあったが、6月以降はすべて予定どおり実施し、令和5年3月には、4年ぶりとなる「ミュージアムコンサート」を開催した。
- ・この他、極力控えていた展示解説対応の緩和や貸室利用人数の制限解除(コロナ前の定員数に戻した)、さらに、令和5年3月より、接触型展示物に抗菌・抗ウイルス効果のあるガラスコーティング加工を施したうえで、3年ぶりに使用を再開した。



資

料

---

# I 収蔵資料の概要

収蔵資料総数 (令和5年4月1日現在)

総集	美術	工芸	歴史	考古	民俗	生物	地質	先覚	真澄	計
3,787	450	13,796	9,202	2,642	10,966	126,236	17,859	5,596	2,233	192,767

文化財指定物件一覧 (館蔵資料)

指定区分	部門	記号番号	物件名	数量	指定年月日	
県	美術	絵画第6号	紙本着色 秋田風俗絵巻	1巻	昭和29. 3. 7	県指定有形文化財 (絵画)
県	工芸	工芸第40号	刀 銘出羽住忠秀刻印	1口	昭和38. 2. 5	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第34号	鐔 壇溪図	1枚	昭和38. 2. 5	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第53号	短刀 銘天野藤原高真作 元治元年吉日	1口	昭和44. 8. 9	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第63号	魚藻文沈金手箱	1合	昭和53. 2.14	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第62号	鐔 (あやめ図透彫) 銘 出羽秋田住正阿弥二代作 享保十八年三月日	1枚	平成 3. 3.19	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第67号	刀 銘羽州住兼廣作 安政四年三月吉日	1口	平成 4. 4.10	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第66号	秋田家資料 (刀剣類ほか)	1括	平成11. 3.12	県指定有形文化財 (工芸)
国	考古	考古資料第362号	人面付環状注口土器 秋田県南秋田郡昭和町大久保 字狐森出土	1口	昭和53. 6.15	重要文化財 (考古資料)
県	考古	考古資料第25号	勾玉および玉類 (枯草坂古墳出土)	52点	昭和57. 1.12	県指定有形文化財 (考古資料)
県	考古	考古資料第26号	鉢形土器 (沢田遺跡出土)	1点	昭和57. 1.12	県指定有形文化財 (考古資料)
県	考古	考古資料第27号	穀丁遺跡出土品 (青磁碗他)	1括	昭和58. 2.12	県指定有形文化財 (考古資料)
国	考古	考古資料第435号	磨製石斧 秋田県雄勝郡東成瀬村田子内 上掬出土	4箇	昭和63. 6. 6	重要文化財 (考古資料)
県	歴史	歴史資料第6号	久保田城下絵図	1幅	平成 1. 3.17	県指定有形文化財 (歴史資料)
県	歴史	歴史資料第7号	紙本金地着色 男鹿図屏風	六曲 一双	平成 3. 3.19	県指定有形文化財 (歴史資料)
県	歴史	書跡典籍第10号	平田篤胤竹画讃	1幅	昭和39.11.17	県指定有形文化財 (書跡・典籍)
県	歴史	書跡典籍第11号	平田篤胤書簡	1巻	昭和39.11.17	県指定有形文化財 (書跡・典籍)
県	歴史	書跡典籍第12号	平田篤胤和魂漢才	1幅	昭和39.11.17	県指定有形文化財 (書跡・典籍)
県	歴史	書跡典籍第17号	手柄岡持 (朋誠堂喜三二) 自筆作品並びに関係資料 (江都前後赤壁)	1点	平成30. 3.16	県指定有形文化財 (書跡・典籍)
国	民俗	建造物第1594号	旧奈良家住宅	1棟	昭和40. 5.29	重要文化財 (建造物)
国	民俗	第5-130号	旧奈良家住宅味噌蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-131号	旧奈良家住宅文庫蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-132号	旧奈良家住宅座敷蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-133号	旧奈良家住宅新住居	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-134号	旧奈良家住宅南米蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-135号	旧奈良家住宅北米蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-136号	旧奈良家住宅北野小休所	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
県	民俗	民俗資料第12号	県内木造船資料	13点	平成 4. 4.10	県指定有形民俗文化財
県	民俗	民俗資料第13号	秋田柚子造材之画	1点	平成 5. 4. 9	県指定有形民俗文化財
国	生物		田沢湖のクニマス (標本)	1点	平成20. 7.28	登録記念物

## II 歴代館長、特別展等一覧

### ▶ 名誉館長

新野直吉	平成12年4月～
------	----------

### ▶ 歴代館長

佐藤文夫	昭和50年5月～昭和52年3月
加賀谷辰雄	昭和52年4月～昭和53年3月
奈良修介	昭和53年4月～昭和58年3月
畠山芳郎	昭和58年4月～昭和63年12月
斉藤長	昭和64年1月～平成元年3月
佐藤巖	平成元年4月～平成3年8月
橋本顕信	平成3年9月～平成4年3月
近藤貢太郎	平成4年4月～平成7年3月
高橋彰三郎	平成7年4月～平成9年3月
新野直吉	平成9年4月～平成12年3月
富樫泰時	平成12年4月～平成15年3月
佐々田亨三	平成15年4月～平成17年6月
三浦憲一	平成17年6月～平成18年3月

沢井範夫	平成18年4月～平成20年3月
佐々木義幸	平成20年4月～平成21年3月
鈴木幸一	平成21年4月～平成22年3月
荒川恭嗣	平成22年4月～平成23年3月
神馬洋	平成23年4月～平成25年3月
風登森一	平成25年4月～平成27年3月
佐々木人美	平成27年4月～平成29年3月
山口多加志	平成29年4月～平成30年3月
山田浩充	平成30年4月～平成31年3月
高橋正	平成31年4月～令和3年3月
今川拡	令和3年4月～令和4年3月
小園敦	令和4年4月～令和5年3月
伊藤真	令和5年4月～

### ▶ 特別展等一覧

昭和53年1月	地域展	伝説の里鹿角
7月	特別展	(東京国立博物館巡回展) 日本の美
10月	特別展	文化庁所蔵優秀美術作品展
55年1月	地域展	鳥海山麓－山と人－
7月	特別展	日本の時代服飾
56年9月	東北展	東北の仮面
58年1月	地域展	平鹿－水とくらし－
7月	特別展	はにわ
59年5月	東北展	東北の近世大名
60年12月	地域展	能代・山本 －川と山のくらし－
61年7月	特別展	世界の貝
62年6月	東北展	出羽の近世大名
63年5月	特別展	神々のかたち－仮面と神像－
平成元年6月	特別展	日本列島発掘展
11月	地域展	湯沢・雄勝の文物展
2年7月	特別展	日本のやきもの
3年4月	特別展	世界の昆虫
4年7月	特別展	近世美術の華
5年4月	特別展	鳥ってなあに
6年4月	特別展	北方文化のかたち
7年4月	特別展	地球を見つめる小さな眼
8年10月	特別展	ラ・ビレット －科学の遊園地－
9年11月	特別展	日本のわざと美
10年4月	特別展	ネアンデルタール人の復活
11年4月	特別展	おもちゃ

平成12年10月	特別展	(国立博物館美術館巡回展) 信仰と美術
16年9月	特別展	オリエント文化展
10月	北東北三県共同展	描かれた北東北
17年7月	特別展	いきもの図鑑 ～牧野四子吉の世界～
18年9月	特別展	熊野信仰と東北 ～名宝でたどる祈りの歴史～
19年7月	北東北三県共同展	北東北自然史博物館
20年7月	特別展	昆虫の惑星
21年4月	特別展	白岩焼
22年5月	北東北三県共同展	境界に生きた人々
23年7月	特別展	粋なよそおい 雅なよそおい
24年9月	特別展	アンダー×ワンダー！ －北東北の考古学最前線－
25年7月	特別展	あきた大鉄道展
26年9月	特別展	菅江真澄、旅のまなざし
27年9月	特別展	徳川将軍家と東北
28年9月	特別展	発掘された日本列島2016
29年7月	特別展	妖怪博覧会 ～秋田にモノノケ大集合！～
30年7月	特別展	あきた大鉄道展 HE-30系
令和元年7月	特別展	1964－世界の祭典から半世紀－
3年9月	特別展	佐竹氏遺展示 －守り継がれた大名家資料－
4年7月	特別展	大恐竜展秋田 －生命の鼓動を感じて－

### Ⅲ 秋田県立博物館条例

（昭和50年3月12日公布  
昭和50年5月1日施行  
平成31年3月15日最終改正  
令和元年10月1日施行）

（設置）

第1条 郷土の自然と人文に関する認識を深め、県民の学術及び文化の発展に寄与するため、秋田県立博物館（以下「博物館」という。）を秋田市金足鳩崎字後山52番地に設置する。

（職員）

第2条 博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

（博物館協議会）

第3条 博物館に秋田県立博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は、委員15人以内で組織する。

3 委員は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

- 一 学校教育及び社会教育の関係者
- 二 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- 三 学識経験のある者
- 四 博物館の利用者

4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（入場料等の徴収）

第4条 博物館本館において特別の展示を行う場合は、同館に入館しようとする者から入館料を徴収する。

2 前項の入館料の額は、別表第1に定める額の範囲内においてその展示の都度知事が定める。

3 地方自治法（昭和22年法律第67号）第238条の4第7項の規定による許可を受けて講堂又は学習室を使用しようとする者から、別表第2に定めるところにより使用料を徴収する。

（入館料等の減免）

第5条 知事は、特別な理由があると認めるときは、入館料又は使用料を減免することができる。

（入館料等の不還付）

第6条 既に徴収した入館料又は使用料は、還付しない。ただし、知事は、講堂又は学習室の使用について、使用者の責に帰することのできない事由により、使用することができなくなったときその他特に必要があると認めるときは、その一部又は全部を還付することができる。

（施行規定）

第7条 この条例の施行に関し必要な事項は、別に定める。

#### 別表第1（第4条関係）

入館料の上限額

区 分	金 額	
	個 人	20人以上の団体
小学校児童及び中学校生徒	200円	1人につき 160円
高等学校生徒並びに高等専門学校及び大学の学生	400円	1人につき 320円
一 般	600円	1人につき 480円

備考：この表における「小学校児童及び中学校生徒」及び「高等学校生徒並びに高等専門学校及び大学の学生」には、それぞれこれらの者に準ずる者を含むものとする。

#### 別表第2（第4条関係）

区 分	金 額
講 堂	1 日 11,940円
	半 日 5,970円
学 習 室	1 日 3,560円
	半 日 1,780円

## IV 秋田県教育委員会行政組織規則（抜粋） 教育機関の管理及び運営に関する規則（抜粋）

### ◎ 秋田県教育委員会行政組織規則

第26条 秋田県立博物館（以下「博物館」という。）の所掌事務は、次のとおりとする。

- 一 博物館事業の企画運営に関すること。
- 二 資料の収集、保管及び展示に関すること。
- 三 資料の専門的・技術的な調査研究に関すること。
- 四 資料の解説及び広報活動に関すること。

### ◎ 教育機関の管理及び運営に関する規則

#### 第9章 博物館

（開館時間）

第38条 秋田県立博物館（以下この章において「博物館」という。）の開館時間は、次のとおりとする。ただし、博物館の長（以下この章において「館長」という。）は、必要があると認める場合は、当該時間を変更することができる。

期 間	時 間
4月1日から10月31日まで	午前9時30分から午後4時30分まで
11月1日から3月31日まで	午前9時30分から午後4時まで

（休館日）

第39条 博物館の休館日は、次の各号に掲げるとおりとする。

- 一 月曜日（当該日が休日又は8月29日に当たるときは、その翌日）
- 二 年始（1月1日から1月3日まで）
- 三 年末（12月28日から12月31日まで）

（使用の許可の申請等）

第40条 講堂又は学習室の使用について地方自治法（昭和22年法律第67号）第238条の4第7項の規定による許可を受けようとする者は、館長の定めるところにより、申請書を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 第11条第2項の規定は、講堂又は学習室の使用の許可について準用する。

## V 入館者に関する資料

### (1) 入館者数内訳

令和3年度

総入館者数 51,370人

有料展示

佐竹氏遺宝展－守り継がれた大名家資料－

令和4年度

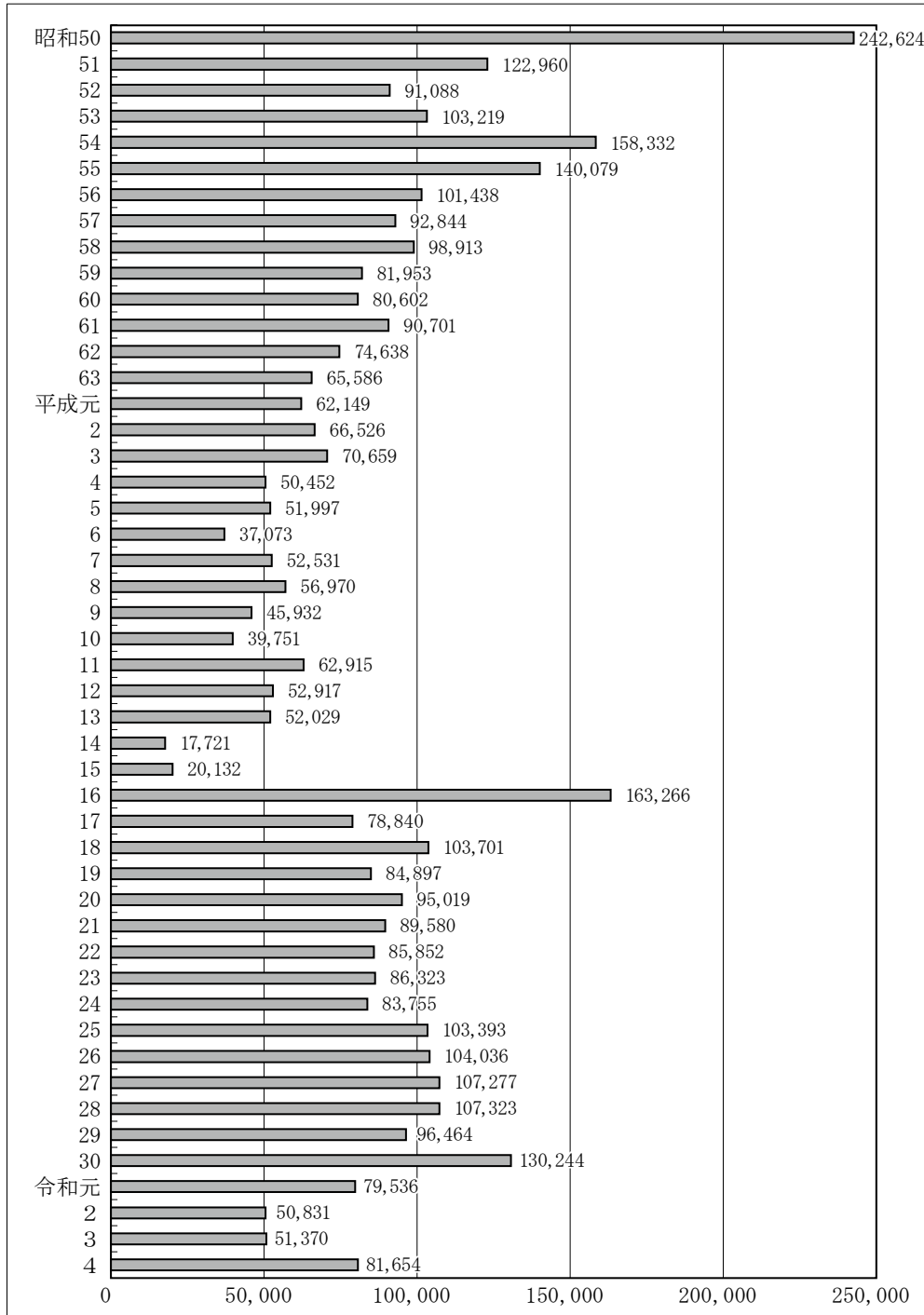
総入館者数 81,654人

有料展示

大恐竜展秋田－生命の鼓動を感じて－

### (2) 年度別入館者数の推移

延べ入館者数 4,068,092人（令和4年度末）



※平成14・15年は、リニューアル工事期間中につき、秋田の先覚記念室・菅江真澄資料センター・分館旧奈良家住宅のみ開館



## ～利用案内～

開館時間 4月～10月 午前9時30分～午後4時30分  
11月～3月 午前9時30分～午後4時

休館日 ・月曜日  
(ただし祝日・振替休日と重なる場合は次の平日)  
・年末年始  
(12月28日～1月3日)  
・燻蒸消毒の期間  
令和5年度は9月4日(月)～9月11日(月)

入館料 無料  
ただし、特別展の観覧は、有料となります。

使用料

	区 分	金 額
講 堂	1 日	11,940円
	半 日	5,970円
学 習 室	1 日	3,560円
	半 日	1,780円

## ～交通案内～



本 館

J R 東日本：奥羽本線・男鹿線追分駅から徒歩20分  
バ ス：秋田駅前起点の五城目線・金足農高入口下車徒歩15分  
車：秋田自動車道昭和男鹿半島 I C より10分、秋田北 I C より15分  
秋田市中心部から国道7号で約15km・30分

分 館

J R 東日本：奥羽本線・男鹿線追分駅から徒歩30分  
バ ス：秋田駅前起点の五城目線・金足農高入口下車徒歩25分

---

## 秋田県立博物館年報

令和5年6月発行

〒010-0124

秋田市金足鳩崎字後山52

秋 田 県 立 博 物 館

T E L 018-873-4121

F A X 018-873-4123

---

